Pioneer

DEH-P01

CD/USB/ チューナー・WMA/MP3/AAC/WAV 対応・DSP メインユニット

取扱説明書

目次 4 ページ

carrozzeria

安全のために必ずお守りください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

■表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

警告	この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
注意	この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

■お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

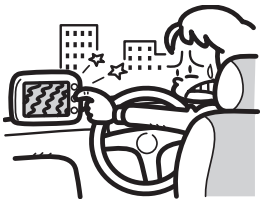
	このような絵表示は､注意（警告を含む）しなければならない内容です。
	このような絵表示は、禁止（やってはいけないこと）の内容です。
	このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

安全上のご注意（別冊の「安全上のご注意」もお読みください。）

警告

[異常時の処置]

故障のまま使用しない



画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない

万一、煙が出る・変なにおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起こりましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する

ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

[使用方法]

運転中に操作をしない

画面を長く見る必要がある複雑な機能は、自動車の運転中に操作をしないでください。前方不注意となり交通事故の原因となります。操作は、必ず安全な場所に車を停車させて行ってください。また運転中、画面を注視する時間は必要最低限としてください。

目 次

安全のために必ずお守りください

絵表示について　2
安全上のご注意　3

はじめに

本書のみかた……8
各部のなまえ……9
本機の特徴……12
50枚型マルチCDプレーヤーの使用
　について……13
バッテリー上がりを防ぐために……13
画面反転機能について……14
リモコンの準備……14
本機のリセットについて……15
フロントパネルの取り外しかた
　／取り付けかた……15

ここだけ読めばすぐ使えます

基本的な操作……18
　電源オン・オフ
　ソース切り換え
　音量調節
CDのふだんの操作……20
　CD を再生する
　フォルダー・ディスクを選ぶ
　曲を選ぶ
　早送り・早戻し
　CD を取り出す
ラジオのふだんの操作……22
　バンドを選ぶ
　放送局を選ぶ
USB機器のふだんの操作……23
　USB 機器の曲を再生する
　フォルダーを選ぶ
　曲を選ぶ
　早送り・早戻し
iPodのふだんの操作……24
　iPod の曲を再生する
　曲を選ぶ
　早送り・早戻し

CDを聞く

ファンクションメニューの
　切り換えかた……26
繰り返し再生する……27
違う曲順で再生する……28
曲／フォルダー／ディスクをさがす……28
再生を一時停止する……29
音を聞きやすくする……30
聞きたい曲を指定する……31
指定した曲だけ再生する……32
曲の指定を1曲ずつ解除する……32
曲の指定をCDごとに解除する……33
CDのタイトルを入力する……33
タイトルやアーティスト名を
　表示させる……34
タイトルを見て聞きたいCDを
　さがす……35
曲名を見て聞きたい曲をさがす……36
タイトルを見て聞きたいフォルダーや
　曲をさがす……36

ラジオを聞く

放送局を1局ずつ登録する……38
登録した放送局を呼び出す……38
ファンクションメニューの
　切り換えかた……39
複数の放送局を自動的に登録する……39
放送局名を見て聞きたい放送局を
　呼び出す……40
放送局名を選ぶ……41
放送局名を表示する……41

USB機器を聞く

ファンクションメニューの
切り換えかた……42
タイトルやアーティスト名を
表示させる……43
タイトルを見て聞きたい
フォルダーや曲をさがす……43

iPodを聞く

チャプターを選ぶ……44
聞きたい曲をさがす……44
リスト表示をアルファベットで
検索する……45
タイトルやアーティスト名を
表示させる……46
ファンクションメニューの
切り換えかた……46
違う曲順で再生する……48
すべての曲をシャッフルしてから
再生する……48
再生中の曲にリンクした曲を
再生する……49
iPodから本機のiPod 機能を
操作する……49
オーディオブックの再生速度を
変更する……50

BT Audioを聞く

Bluetoothアダプターの
組み合わせについて……51
BT Audioのふだんの操作……51
ファンクションメニューの
切り換えかた……52
本システムのデバイス情報を
確認する……53

目 次

携帯電話を使う

Bluetoothアダプターの
　組み合わせについて……54
電話の待ち受けソースにする……54
音声操作で電話をかける……55
かかってきた電話に出る……55
かかってきた電話を切る
　（着信拒否）……56
ファンクションメニューの
　切り換えかた……56
携帯電話を接続する……58
Bluetooth接続を解除する……59
携帯電話を登録する……59
登録されている携帯電話を接続する……60
携帯電話の登録を削除する……61
携帯電話の電話帳を転送する……61
電話帳の表示方法を切り換える……62
電話帳を使う……62
履歴から電話をかける……64
データを消去する……64
電話番号を入力して電話をかける……65
通話中のノイズやエコーを軽減する……65
着信音をON ／ OFFする……66
着信拒否を設定する……66
自動着信を設定する……67
本システムのデバイス情報を
　確認する……67

DVDを再生する

DVDプレーヤーの
　組み合わせについて……68
DVDのふだんの操作……68
ファンクションメニューの
　切り換えかた……69

音を調節する

本機のオーディオ調節機能について……71
オーディオ調節のポイント……71
オーディオ調節モードの
　切り換えかた……72
左右チャンネルの調整モードを
　切り換える……73
左右の音量バランスを調節する……73
リスニングポジションを選ぶ……74
ネットワークを調節する前に……74
ネットワークを調節する……76
タイムアライメントを選ぶ……77
タイムアライメントを調節する……78
イコライザーカーブを呼び出す……79
イコライザーカーブを
　コピー／登録する……79
イコライザーカーブを細かく
　調節する……80
オートイコライザーを
　ON ／ OFFする……80
音を補正して高音質化する……81
小音量時の音にメリハリをつける……81
各ソースの音量の違いをそろえる……82
オートタイムアライメント&
　イコライジングを行う前に……82
オートタイムアライメント&
　イコライジングを行う……84

初期設定

初期設定メニューの切り換えかた……86
接続したスピーカーを設定する……87
リモコンの受光を設定する……88
時計を合わせる……88
フロントパネルの外し忘れを
　警告する……89
フロントパネルを外しやすくする……89
外部機器を使う……90
外部機器の名称を入力する……91

夜間のディスプレイの明るさを切り換える…92
ディスプレイの明るさを調節する……92
イルミネーションの色を変更する……93
イルミネーションの色を調節する……93
イルミネーションを車の操作と
連動させる……94
音の歪みを補正する……94
オーディオ設定をリセットする……95
ミュート／アッテネートを切り換える…95
ドアミュートの極性を設定する……96
ドアミュートを設定する……96
画面反転機能をON ／ OFFする……97
スクロールの設定を切り換える……97
Bluetooth AudioソースをONにする…98
Bluetoothのパスコードを変更する…98
Bluetoothのバージョンを表示する…99

便利な機能

瞬時に音量を小さくする……100
時計を表示させる……100
よく使う機能を直接操作する……101
交通情報を受信する……101
ディスプレイ表示を切り換える……102
エクスターナルユニットを使う……102

その他（付録）

CDの正しい使いかた……104
WMA／MP3／AAC／WAVファイルについて‥106
ディスク内のフォルダーとファイル
について……108
USB機器について……109
USB機器内のフォルダーとファイル
について……109
iPodについて……110
故障かな？と思ったら……112
こんなメッセージが表示されたら……114
保証書とアフターサービス……118
商標・著作権など……119
おもな仕様……120

本書のみかた

お買い上げ後すぐにお使いになりたいときは、「ここだけ読めばすぐ使えます」の項目をお読みください。CD やラジオなどの基本的な操作方法を説明しています。
基本操作以外の便利な機能については、「CD を聞く」や「ラジオを聞く」、「音を調節する」など、それぞれの項目をお読みください。

マークについて

注意マーク

●安全のために必ず守っていただきたいこと、本機を操作するときの注意事項、性能を維持するための注意事項について説明しています。

用語説明マーク

●操作や機能などの用語について説明しています。

メモマーク

●操作上のヒント、便利な使いかたなどについて説明しています。

CD マーク

●内蔵 CD で CD を再生するときの操作方法を説明しています。

CD-ROM マーク

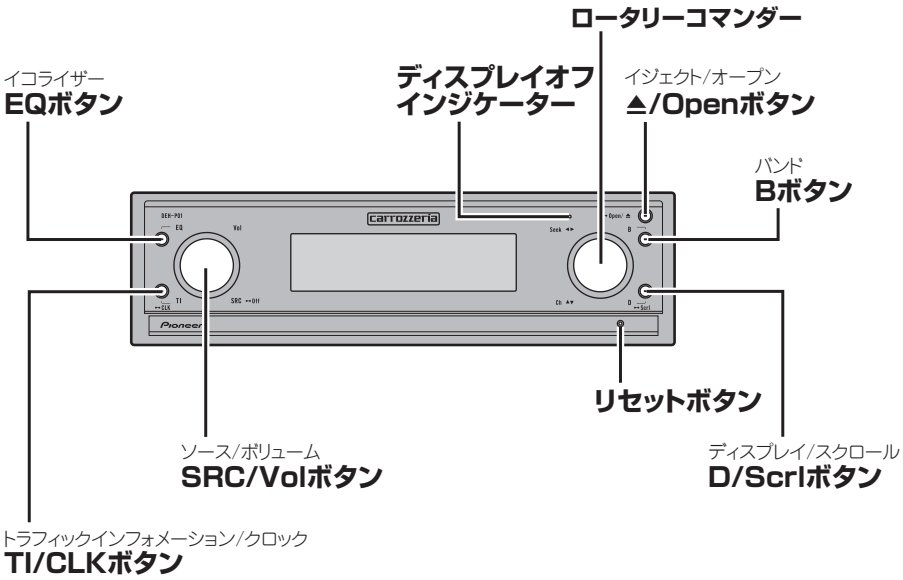
●内 蔵 CD で WMA ／ MP3 ／ AAC ／ WAV ファイルを再生するときの操作方法を説明しています。

マルチ CD マーク

●別売のマルチ CD を本機に接続して使用するときの操作方法を説明しています。

各部のなまえ

本体



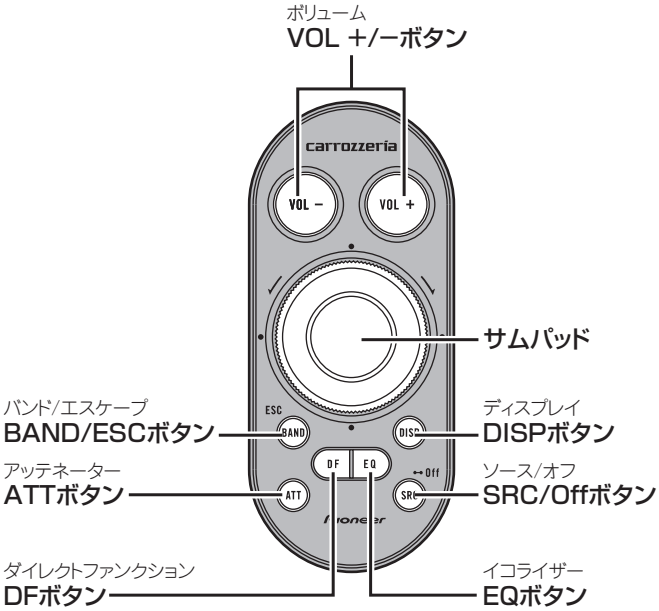
ロータリーコマンダーとは

- 「回す」・「中心を押す」・「上、下、左、右に操作する」の3つの操作を行うことで、本機のさまざまな機能を使うことができます。

各部のなまえ

リモコン

本体と同じなまえのボタンは、本体のボタンと同じ働きをします。



DF ボタンについて

●DF ボタンを押すと、ソースごとにあらかじめ登録されている機能を直接操作することができます。内蔵 CD・WMA/MP3/AAC/WAV・マルチ CD・iPod・DVD でポーズ、ラジオで BSM を操作することができます。(➡「便利な機能」101 ページ)

サムパッドについて

●本体のロータリーコマンダーと同様の操作をすることができます。中心を押すと、本体のロータリーコマンダーを回す操作と同じ動作をします。

ディスプレイ

ソース表示

ソースインジケーター
聞いているソース名を表示します。

ソース情報表示部1
バンド、ステレオインジケーター、プリセットチャンネル番号（ラジオ）
トラック番号（オーディオCD）
ファイル種類、フォルダー番号、トラック番号（WMA/MP3/AAC/WAV）
iPod名称（iPod（USB接続））
ディスク番号、トラック番号（マルチCD）
を表示します。

ソースアイコン
聞いているソースをアイコンで表示します。

電源電圧表示
電源電圧を表示します。

ソース情報表示部2
周波数（ラジオ）
再生経過時間（オーディオCD、マルチCD）
ビットレート、再生経過時間（WMA/MP3/AAC）
サンプリング周波数、再生経過時間（WAV）
再生経過時間、再生中の曲番号やリスト収録曲数（iPod）
各種設定内容（ファンクション・オーディオ・初期設定・オートタイムアライメント&イコライジング）
などを表示します。

ガイド表示（ファンクション・オーディオ・初期設定・オートタイムアライメント&イコライジング）

ガイド表示
現在、有効なロータリーコマンダーの操作が点灯します。

表示例	内容
	ロータリーコマンダーの中心を押して操作できます。
	上下左右にロータリーコマンダーを押して操作できます。また、ロータリーコマンダーの中心を押しての操作もできます。

リスト表示

反転表示
再生中の項目（トラックやフォルダー）、受信中の項目（放送局や周波数の表示）は、反転表示されます。

ハイライト表示
選んでいる項目は、ハイライト表示されます。

本機の特徴

多様なメディアと圧縮フォーマットに対応

本機は、音楽 CD のほか、次のメディアに収録した圧縮オーディオファイルを再生できます。

- CD-R ／ CD-RW
- USB ポータブルオーディオプレーヤー
- USB メモリー

対応する圧縮フォーマットは、次のとおりです。

- WMA
- MP3
- AAC
- WAV

対応とご注意について詳しくは、（➡「WMA ／ MP3 ／ AAC ／ WAV ファイルについて」106 ページ）。

また、iPod の接続にも対応しています。

さらに、圧縮フォーマットの楽曲の音を補正する機能として、「サウンドレトリバー」を搭載しています。この機能により、CD に迫る音質での再生が可能になります。

本機と別売の Bluetooth 用アダプター（例：CD-BTB10）を組み合わせると、Bluetooth 対応のオーディオプレーヤーの再生や Bluetooth 対応の携帯電話でのハンズフリー通話をワイヤレスで実現できます。

USB 機器の接続

対応する USB 機器や接続時のご注意については（➡「USB 機器について」109 ページ、「おもな仕様」120 ページ）。

ご注意

- 本機と組み合わせて使用しているときに USB 機器のデータが消失しても、消失したデータの補償についてはご容赦ください。

iPod の接続

本機は、iPod を本機の USB ケーブルに接続して操作できます。メインユニットからの操作はもちろん、「操作設定」によって iPod からの操作が可能です。スムーズな選曲が実現できます。対応する iPod や接続時のご注意については（➡「iPod について」110 ページ）。

メモ

- 本書では便宜上、iPod、iPhone を iPod と表記しています。

ご注意

- 本機と組み合わせて使用しているときに iPod のデータが消失しても、消失したデータの補償についてはご容赦ください。

50 枚型マルチ CD プレーヤーの使用について

本機では、50 枚型マルチ CD プレーヤーの取扱説明書に記載されている 50 枚型マルチ CD プレーヤー特有の機能は操作できません。本機で操作できるのは、本書に記載されている機能だけです。また、ディスクリストには切り換わりません。

バッテリー上がりを防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。
また、本機が電源 OFF のときでも、車のエンジンを止めた状態で、長時間、車のイグニッションスイッチを ON（または ACC）にしないでください。バッテリーが上がるおそれがあります。

ご注意

- 車のバッテリー交換などで本機に電源が供給されなくなると、本機は初期状態に戻ります。本機が初期状態に戻ると、ラジオのプリセットメモリー、時計などの設定内容は消去されてしまいます。
  ラジオのプリセットメモリーは（➡「放送局を 1 局ずつ登録する」38 ページ）、時計調整は（➡「時計を合わせる」88 ページ）を参照して、再設定してください。

画面反転機能について

画面反転機能は、各ソースを聞いているときに30秒間操作しないと画面が自動的に反転する機能です。反転は、10秒間隔で行われます。画面反転機能を解除したいときは、車のイグニッションスイッチがON（またはACC）のときに本機の電源をOFFにしてBボタンを押してください。もう一度押すと、ONになります。

メモ

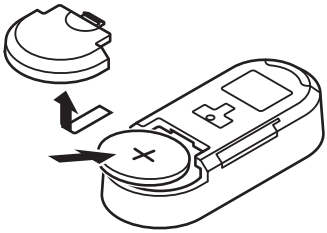
- 画面反転機能は、初期設定メニューからもON／OFFできます。

リモコンの準備

付属のリモコンを使うための準備です。

リモコンに電池を入れる

裏ブタを外して、リチウム電池（CR2032）の（+）側を上にしてセットします。



メモ

- はじめてお使いになるときは、電池ホルダー部から出ているフィルムを引き抜いてください。電池があらかじめセットされていますので、すぐにお使いいただけます。

リモコンの操作可能範囲が狭くなったときは、新しい電池と交換してください。

リモコンの取り扱い上のご注意

- リモコンを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- リモコンを固定してお使いになるときは、本体へ信号が届く位置に設置してください。
- 本体に直射日光が当たっていると、リモコンを操作できないときがあります。このようなときは、日光をさえぎってからリモコンを操作してください。
- 付属の電池は充電できません。
- リモコンを長い間使わないときは、電池を取り出してください。取り出した電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。
- 電池の液もれが起こったときは、内部に付いた液をよくふき取ってから、新しい電池と入れ換えてください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。
- 本機に付属の電池は、日光や火気など過度の熱が当たる場所に置かないでください。

本機のリセットについて

リセット

本機を初期設定状態に戻すことができます。

リセットボタンについて

次のようなときに、リセットボタンを押してください。

- 接続が終わったあと。
- 本機が正しく動作しないとき。
- ディスプレイが正しく表示されないとき。

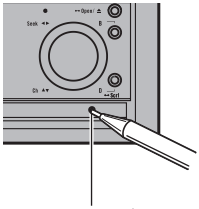
リセットボタンを押すと、オーディオ設定以外の調整内容（時計やラジオのプリセットなど）が消去されます。もう一度、セットしなおしてください。

ご注意

- 本機をリセットする前に、フロントパネルを閉めておいてください。（CD を挿入口に差したままにしないでください。）

1 本機をリセットする

ペン先などでリセットボタンを押す



リセットボタン

メモ

- フロントパネルを開けたままリセットすると、自動的にフロントパネルが閉じます。

フロントパネルの取り外しかた／取り付けかた

盗難抑制のため、フロントパネルを取り外すことができます（デタッチャブル機構）。

フロントパネルの取り扱い上のご注意

- フロントパネルを無理に引いて取り外さないでください。
- 取り外し、取り付けの際に、ディスプレイやボタンを強く持たないでください。
- 落とす、ぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。故障することがあります。
- 分解しないでください。
- ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。
- 汚れたときは、きれいな乾いた布でふいてください。その場合に、フロントパネルおよび本体の端子部を触らないようにしてください。接触不良の原因となることがあります。

次のページへ続く

フロントパネルの取り外しかた／取り付けかた <つづき>

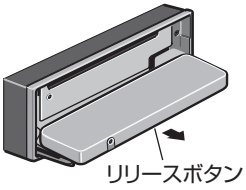
フロントパネルの取り外しかた

1 フロントパネルを開ける

▲/Open ボタンを長く押す
フロントパネルが開きます。

2 フロントパネルを取り外す

リリースボタンを押しながら、フロントパネルを手前に引く
フロントパネルが外れます。



数秒後に中ブタが自動的に閉まります。このとき、指などを挟み込まないように注意してください。

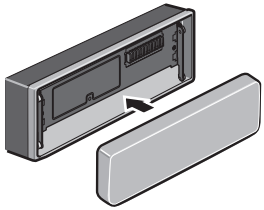
3 フロントパネルを保管する

付属のフロントパネル保護ケースにフロントパネルを入れる

フロントパネルの取り付けかた

1 フロントパネルを取り付ける

フロントパネルを本体に“カチッ”と音がするまで押し込む

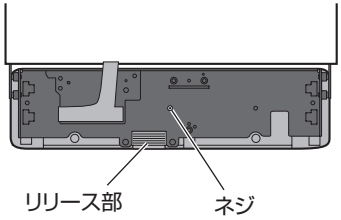


フロントパネルの固定ネジについて

フロントパネルを取り外す必要のない場合は、付属の固定ネジでフロントパネルを固定して、お使いください。

1 フロントパネルを固定する

フロントパネルを開けた状態で、固定ネジを使って、フロントパネルを中ブタに取り付ける



基本的な操作

電源オン・オフ　ソース切り換え
音量調節

1 電源を ON にする

SRC/Vol ボタンを押す
本機の電源が ON になります。

2 ソースを切り換える

SRC/Vol ボタンを押す
SRC/Vol ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

ラジオ（FM/AM）
↓
DVD プレーヤー
↓
内蔵 CD
↓
マルチ CD（別売）
↓
iPod（別売アダプター）
↓
USB ／ iPod
↓
External 1
（エクスターナルユニット 1）（別売）
↓
External 2
（エクスターナルユニット 1）（別売）
↓
AUX1
（外部機器 1）（別売）
↓
AUX2
（外部機器 2）（別売）
↓
BT Audio
（Bluetooth オーディオ）（別売）
↓
BT TEL
（Bluetooth テレホン）（別売）

3 音量を調節する

SRC/Vol ボタンを回す
右に回す：大きくするとき
左に回す：小さくするとき
●約 4 秒間、音量が表示されます。

4 電源を切る

SRC/Vol ボタンを長く押す
本機の電源が切れます。

ソースとは

●SRC/Vol ボタンを押すと切り換わる、内蔵 CD やラジオなどの音源のことです。

EXT（エクスターナルユニット）とは

●本機にソースとして認識されないパイオニア製品（将来発売される製品など）を、エクスターナルユニットと呼びます。本機は、エクスターナルユニットを計 2 台まで接続してコントロールできます。2 台のエクスターナルユニットを接続した場合、それぞれのユニットは EXT1、EXT2 ソースとして自動的に認識されます。表示は、どちらを選んだ場合も「EXT」になります。（➡「エクスターナルユニットを使う」103 ページ）

メモ

●接続していないソースには切り換わりません。
●音量の調整範囲は 0 ～ 62 です。
●ディスクを CD 挿入口に差し込んだときも、電源が ON になります。
●次の場合、該当のソースには切り換わりません。
・対応する機器を接続していない
・ディスクまたはマガジンをセットしていない
・AUX ソースを OFF にしている（➡「外部機器を使う」90 ページ）
・BT Audio ソースを OFF にしている（➡「Bluetooth Audio ソースを ON にする」98 ページ）
●AUX1 は初期設定では ON に設定されています。使用しない場合は OFF に設定してください。（➡「外部機器を使う」90 ページ）
●本機の青リード線（アンテナコントロール）に車側のオートアンテナコントロール端子を接続している場合、ソースをラジオにすると車に装備されているオートアンテナがのびます。
●CD をセットしたまま電源を OFF にすることもできます。
●電源が OFF のときでも、▲/Open ボタンを押して CD を取り出すことができます。
●時計を表示させている場合、電源を OFF にしても時計は表示されます。

DVD プレーヤーを接続したときは

操作のしかたは、それぞれの取扱説明書もご覧ください。
DVD プレーヤー（例：「XDV-P70」）などの取扱説明書では、本機以外の製品を例にして、操作を説明している場合があります。その製品と対応しているボタンで操作します。

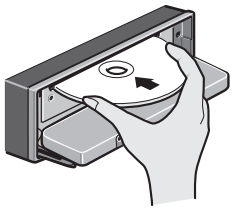
CD のふだんの操作

画面例

1 CD を再生する

CD CD-ROM

▲/Open ボタンを押して、フロントパネルを開き、CD を CD 挿入口に差し込む



↓

自動的にフロントパネルが閉まり、CD の再生が始まります。

M-CD

ソースがマルチ CD になるまで、SRC/Vol ボタンを押す

2 フォルダー（ディスク）を選ぶ

CD-ROM M-CD

ロータリーコマンダーを上下に操作する

次のフォルダー（ディスク）を選ぶ：
　上に操作する
前のフォルダー（ディスク）を選ぶ：
　下に操作する

3 曲を選ぶ（または早送り／早戻しする）

CD CD-ROM M-CD

ロータリーコマンダーを左右に操作する

■ 聞きたい曲を選ぶとき

次の曲を選ぶ：右に操作する
前の曲を選ぶ：左に操作する

■ 早送り／早戻しをするとき

早送り：右に操作し続ける
早戻し：左に操作し続ける

4 他のソースに切り換えるか、電源をオフにする

CD CD-ROM M-CD

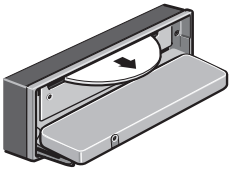
再生が終わります

5 CD を取り出す

CD　CD-ROM

▲/Open ボタンを押す

自動的にフロントパネルが開き、ディスクが出てきます。



↓

▲/Open ボタンを押す

フロントパネルが閉まります。

- CD 挿入口にゴミやホコリが入るのを防ぐため、フロントパネルを閉めてください。

ご注意

- ディスクはタイトル面を上にして差し込みます。
- CD 挿入口には、CD 以外のものを入れないでください。故障の原因となります。
- 8 cm CD の再生には対応していません。
  8 cm CD は使用しないでください。
- 出てきたディスクはすぐに取り出して保管してください。CD 挿入口からディスクを出したまま走行すると危険です。
- CD/CD-R/CD-RW を使用するときのご注意については、➡「CD の正しい使いかた」104 ページ。

知っていると便利

- 圧縮オーディオファイル再生時は、B ボタンを長く押すと、フォルダー 01（ROOT）に戻ります。ただし、フォルダー 01（ROOT）にファイルがない場合は、次のフォルダーから再生が始まります。
- ディスクをセットしたまま、電源を OFF にしたり他のソースに切り換えることができます。
- 圧縮オーディオファイルと音楽データが混在しているディスクの場合、切り換えて再生できます。切り換えるときは、B ボタンを押します。再生は、それぞれ一番先頭の曲から始まります。

メモ

- 「CD TEXT」や「CD-ROM」など，文字情報が記録されたディスクでは、ディスクタイトル、曲名などを表示できます（➡「タイトルやアーティスト名を表示させる」34 ページ）。表示を切り換えている場合は、ディスクを挿入したときや、他のソースから内蔵 CD に切り換えたときなどに、タイトルを自動的にスクロール表示します。「CD TEXT」に対応しているマルチ CD（「CDX-P670」など）に「CD TEXT」をセットしているときも、ソースをマルチ CD に切り換えると、タイトルを自動的にスクロール表示します。
- 圧縮オーディオファイルを早送り／早戻ししているときには、音声は出力されません。
- VBR（可変ビットレート）で録音された WMA ／ MP3 ／ AAC ／ WAV ファイルを早送り／早戻しすると、再生経過時間が正しく表示されないことがあります。
- ディスクを挿入すると、本機はディスクからファイル形式などの情報を読みとります。この間、画面には「FORMAT READ」と表示されます。
- マルチ CD が準備動作（CD の有無の確認や CD の情報の読み込みなど）をしている場合があります。このとき、ソースをマルチ CD に切り換えると、「READY」と表示されます。
- マルチ CD 再生中にマルチ CD からマガジンを取り出すと、「NO MAGAZINE」と表示されます。

ラジオのふだんの操作

バンドを選ぶ　放送局を選ぶ

画面例

1 ソースをラジオにする

ソースがラジオになるまで SRC/Vol ボタンを押す

2 バンドを選ぶ

B ボタンを押す

B ボタンを押すごとに、次の順序でバンドが切り換わります。

FM-1 → FM-2 → AM-1 → AM-2 →（FM-1 に戻る）

3 放送局を選ぶ

ロータリーコマンダーを左右に操作する

■ 手動で選ぶとき（手動選局）

高い周波数の放送局を選ぶ：
　右に操作する

低い周波数の放送局を選ぶ：
　左に操作する

■ 自動で選ぶとき（自動選局）

高い周波数の放送局を自動で選ぶ：
　右に長く操作して離す

低い周波数の放送局を自動で選ぶ：
　左に長く操作して離す

4 他のソースに切り換えるか、電源をオフにする

ラジオの受信が終わります

知っていると便利

- バンドごとに放送局を 6 局ずつ登録できます（➡「放送局を 1 局ずつ登録する」39 ページ、「複数の放送局を自動的に登録する」 40 ページ）。
- ロータリーコマンダーを左右に操作している間、途中の放送局を飛ばすことができます。離したところから自動選局を開始します。
- 電波の強い放送局を選局するには自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには手動選局をおすすめします。

USB 機器のふだんの操作

USB 機器の曲を再生する
フォルダーを選ぶ　曲を選ぶ
早送り・早戻し

画面例

1 ソースを USB にする

ソースが USB になるまで SRC/Vol ボタンを押す

2 フォルダーを選ぶ

ロータリーコマンダーを上下に操作する

次のフォルダーを選ぶ：上に操作する
前のフォルダーを選ぶ：下に操作する

3 曲を選ぶ（または早送り／早戻しする）

ロータリーコマンダーを左右に操作する

■ 聞きたい曲を選ぶとき

次の曲を選ぶ：右に操作する
前の曲を選ぶ：左に操作する

■ 早送り／早戻しをするとき

早送り：右に操作し続ける
早戻し：左に操作し続ける

4 USB機器を外す。ほかのソースに切り換える。または、電源をオフにする

USB の再生が終わります

ご注意

- 対応する USB 機器をご使用ください。ただし、対応する USB 機器でも正しく動作しない場合があります。（➡「USB 機器について」109 ページ）。
- USB 機器を使用するときのご注意については、（➡「USB 機器について」109 ページ）。

知っていると便利

- USB 機器を接続したまま、電源を OFF にしたり他のソースに切り換えることができます。
- USB 機器は、いつでも本機から取り外すことができます。
- B ボタンを長く押すと、フォルダー 01（ROOT）に戻ります。ただし、フォルダー 01（ROOT）にファイルがない場合は、次のフォルダーから再生が始まります。

メモ

- USB 機器にバッテリー充電機能がある場合、エンジンスイッチが ACC または ON になっているときに USB 機器のバッテリーが充電されます。
- USB ソースでは、接続した USB 機器の情報を読みとる間、「FORMAT READ」と表示されます。USB 機器の情報を読みとるため、再生までに時間がかかります。

iPod のふだんの操作

iPod の曲を再生する
曲を選ぶ　早送り・早戻し

iPod Dock コネクタ（USB2.0 ケーブル用）を使用して iPod を本機に接続をして操作できます。

画面例(USB接続)

1 ソースを iPod にする

ソースが iPod になるまで SRC/Vol ボタンを押す

■ iPod アダプターで接続するとき

iPod を接続して、ソースが iPod になるまで SRC/Vol ボタンを押す。

2 曲を選ぶ（または早送り／早戻しする）

ロータリーコマンダーを左右に操作する

■ 聞きたい曲を選ぶとき

次の曲を選ぶ：右に操作する
前の曲を選ぶ：左に操作する

■ 早送り／早戻しをするとき

早送り：右に操作し続ける
早戻し：左に操作し続ける

3 iPodを外す。ほかのソースに切り換える。または、電源をオフにする

iPod の再生が終わります

ご注意

- iPod アダプター（例：「CD-IB10 Ⅱ」）と組み合わせて iPod を接続している場合は、Podcast やオーディオブックに関する機能は操作できません。また、iPod 名称は表示されません。
- 再生範囲が 1 曲リピートのときは、ロータリーコマンダーを左右に操作して曲を選ぶことはできません。
- iPod には iPod 用 USB 変換ケーブルのみを接続してください。iPod 用 USB 変換ケーブル以外のものを接続すると、本機が正常に動作しないことがあります。
- 本機に接続する前に、iPod からヘッドホンを外してください。
- iPod を使用するときのご注意や iPod の設定については ➡「iPod について」110 ページ。

メモ

- 再生しているオーディオブックや Podcast にチャプターがある場合、ロータリーコマンダーを左右に操作して、チャプターが選べます。
  - ・次のチャプターを選ぶ：右に操作する
  - ・前のチャプターを選ぶ：左に操作する
- エンジンスイッチが ACC または ON になっている場合、iPod のバッテリーが充電されます。
- 「操作設定」を「AUDIO」に設定した場合、iPod は本機に接続されている間、iPod 自身で電源を ON ／ OFF することはできません (➡「iPod から本機の iPod 機能を操作する」49 ページ)。
- エンジンスイッチを OFF にして約 2 分後に、本機に接続されている iPod の電源も OFF になります。

ファンクションメニューの切り換えかた

「繰り返し再生する」「違う曲順で再生する」などの便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例

使いたい機能を選ぶ

1 メインメニューを表示する

ロータリーコマンダーを押す

2 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンダーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンダーを押す

3 機能を切り換える

ロータリーコマンダーを回す

ロータリーコマンダーを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります。

CD　CD-ROM

再生範囲切換
（➡「繰り返し再生する」27 ページ）
↕
ランダムプレイ設定
（➡「違う曲順で再生する」28 ページ）
↕
スキャンプレイ設定
（➡「曲／フォルダー／ディスクをさがす」28 ページ）
↕
ポーズ設定
（➡「再生を一時停止する」29 ページ）
↕
タイトル入力
（➡「CD のタイトルを入力する」33 ページ）

M-CD

再生範囲切換
（➡「繰り返し再生する」27 ページ）
↕
ランダムプレイ設定
（➡「違う曲順で再生する」28 ページ）
↕
スキャンプレイ設定
（➡「曲／フォルダー／ディスクをさがす」28 ページ）
↕
ポーズ設定
（➡「再生を一時停止する」29 ページ）
↕
コンプレッション設定
（➡「音を聞きやすくする」30 ページ）
↕
ITS プレイ設定
（➡「指定した曲だけ再生する」32 ページ）
↕
ITS 登録
（➡「聞きたい曲を指定する」31 ページ）
↕
タイトル入力
（➡「CD のタイトルを入力する」33 ページ）

メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、B ボタンを押します。（「タイトル入力」や「ITS 登録」を選んでいるとき以外は、30 秒間何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります。）

ご注意

- 圧縮オーディオファイルを再生しているときは、「タイトル入力」は選べません。
- 「CD TEXT」には、タイトルを入力できません。「CD TEXT」を再生しているときは、「タイトル入力」は選べません。

繰り返し再生する

再生範囲切換

曲を繰り返し（リピート）再生できます。繰り返しの範囲は、いま聞いている曲やディスク全体などから選べます。選べる範囲は、ソースやディスクによって異なります。

1 再生範囲切換にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」26 ページ）

2 再生範囲を切り換える

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、次の順序で再生範囲が切り換わります。

Disc repeat （ディスクリピート）
↓
Track repeat （トラックリピート）

Disc repeat （ディスクリピート）
↓
Track repeat （トラックリピート）
↓
Folder repeat（フォルダーリピート）

M-CD repeat（マルチ CD リピート）
↓
Track repeat （トラックリピート）
↓
Disc repeat （ディスクリピート）

ディスクリピート：
いま聞いているディスクを繰り返し再生します。

トラックリピート：
いま聞いている曲を繰り返し再生します。

フォルダーリピート：
いま聞いているフォルダーを繰り返し再生します。

マルチ CD リピート：
マルチ CD にセットされているすべてのディスクを繰り返し再生します。

3 ふだんの再生画面にする

B ボタンを押す

メモ

- 選んだ再生範囲は、次の機能の再生範囲に影響します。「ランダムプレイ設定」「スキャンプレイ設定」「ITS 再生設定」
- フォルダーリピートは、再生中のフォルダー内の曲だけを再生します。サブフォルダー内の曲は、再生しません。

違う曲順で再生する

ランダムプレイ

曲やCDを順不同（ランダム）に再生できます。いつもと違った曲順で音楽を楽しみたいときに便利です。

1 ランダム再生する範囲を選んでおく

ランダムプレイは、再生範囲切換で選んだ範囲で行われます

（➡「繰り返し再生する」27ページ）

2 ランダムプレイ設定にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」26ページ）

3 ランダム再生をONにする

ロータリーコマンダーを押す

次の曲から、ランダムに再生されます。

もう一度押すと、OFFになります。

4 ふだんの再生画面にする

Bボタンを押す

メモ

●再生範囲がトラックリピートのときにランダムプレイ設定をONにすると、再生範囲が次のように切り換わってランダムプレイが行われます。
CD／マルチCD：ディスクリピート
圧縮オーディオファイル：フォルダーリピート

曲／フォルダー／ディスクをさがす

曲やフォルダー、ディスクのはじめの部分だけを、約10秒ずつ再生できます（スキャン再生）。聞きたい曲やフォルダー、ディスクをさがすときに便利です。

1 スキャン再生する範囲を選んでおく

スキャンプレイは、再生範囲切換で選んだ範囲で行われます

（➡「繰り返し再生する」27ページ）

■ 聞きたい曲をさがすとき（トラックスキャン再生）

選んだ再生範囲内のすべての曲を、約10秒ずつ再生します。

●CD再生時は、ディスクリピートに切り換えます。

●圧縮オーディオファイル再生時は、フォルダーリピートに切り換えます。

■ 聞きたいフォルダーをさがすとき（フォルダースキャン再生）

再生中のディスクの全フォルダーの1曲目だけを、約10秒ずつ再生します。

●圧縮オーディオファイル再生時に、ディスクリピートに切り換えます。

■ 聞きたいディスクをさがすとき（ディスクスキャン再生）

マルチCD内のすべてのディスクの1曲目だけを、約10秒ずつ再生します。

●ソースがマルチCDのときに、マルチCDリピートに切り換えます。

2 スキャンプレイ設定にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」26ページ）

3 スキャン再生を始める

ロータリーコマンダーを押す

曲やフォルダー、ディスクのはじめの約10秒間が次々に再生されます。
スキャンプレイを始めて30秒たつと、ふだんの再生画面に自動で戻ります。

4 聞きたい曲やフォルダー、ディスクが再生されたら、ロータリーコマンダーを押す

スキャンプレイ設定がOFFになります

ふだんの再生画面に戻っていたら、まず手順2の操作でスキャンプレイ設定を選びます。次に、ロータリーコマンダーを押すと、スキャンプレイ設定がOFFになります。

5 ふだんの再生画面にする

B ボタンを押す

メモ

- スキャンプレイを始めた曲（フォルダー／ディスク）まで戻ると、スキャンプレイは解除されます。
- 再生範囲がトラックリピートのときにスキャンプレイ設定をONにすると、再生範囲が次のように切り換わってスキャンプレイが行われます。
  CD／マルチCD：ディスクリピート
  圧縮オーディオファイル：フォルダーリピート

再生を一時停止する

ポーズ

曲の再生を一時停止できます。

1 ポーズ設定にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」26ページ）

2 再生を一時停止する

ロータリーコマンダーを押す

もう一度押すと、OFFになります。

3 ふだんの再生画面にする

B ボタンを押す

知っていると便利

- ポーズのON／OFFは、リモコンのDFボタンでも操作できます。（➡「よく使う機能を直接操作する」101ページ）

音を聞きやすくする

コンプレッション

マルチ CD（別売）の機能です。

再生している CD の音質に簡単な補正をかけ、より聞きやすい音に調節できます。
COMP と DBE の 2 つの機能を使って、CD の音質を手軽に調節できます。

ご注意

●COMP（DBE）機能のないマルチ CD を組み合わせたときは、「No COMP」が表示され、操作できません。

COMP とは

●COMP は、「Compression（コンプレッション）」の略です。大きな音と小さな音の音量差（ダイナミックレンジ）を小さくします。

DBE とは

●DBE は、「Dynamic Bass Emphasis（ダイナミックバスエンファシス）」の略です。車内で不足しがちな低音域を押し上げる機能です。

1 コンプレッション設定にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」26 ページ）

2 設定を切り換える

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、次の順序で設定が切り換わります。

COMP OFF
↓
COMP 1
↓
COMP 2
↓
COMP OFF
↓
DBE 1
↓
DBE 2

3 ふだんの再生画面にする

B ボタンを押す

メモ

●COMP、DBE は 1 より 2 の方が効果が大きくなります。

聞きたい曲を指定する

ITS 登録

マルチ CD（別売）の機能です。

聞きたい曲だけを再生するために、再生する曲をあらかじめ指定しておきます。

ITS とは

●ITS は、「Instant Track Selection（インスタントトラックセレクション）」の略です。指定した曲だけを再生できます。ITS の指定は、ITS 解除を行うまで有効です（➡「曲の指定を 1 曲ずつ解除する」32 ページ、「曲の指定を CD ごとに解除する」33 ページ）。

1 ロータリーコマンダーを上下に操作する

指定したい曲の入った CD を再生する

2 ITS 登録にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」26 ページ）

3 指定したい曲を選ぶ

ロータリーコマンダーを左右に操作する

4 指定する

ロータリーコマンダーを上に操作する

「Memory complete」が 2 秒間表示され、指定が完了したことを知らせます。

複数の曲を指定するときは、手順 3 ～ 4 の操作を繰り返して曲を指定してください。

5 ふだんの再生画面にする

B ボタンを押す

メモ

●曲の指定は CD ごとに行われます。CD を入れ換えても、曲の指定は解除されません。

●CD1 枚につき、99 曲まで指定できます。（「CDX-P1250」、「CDX-P650」以前に発売されたマルチ CD プレーヤーでは、指定できる曲は 24 曲目までになります。）

●ITS は、タイトル入力（➡「CD のタイトルを入力する」33 ページ）と合わせて、CD100 枚分の指定ができます。

●100 枚を超えたときは、一番古い指定内容が解除されて、新しい CD の曲が指定されます。

指定した曲だけ再生する

ITS プレイ

マルチ CD（別売）の機能です。

ITS 指定（➡「聞きたい曲を指定する」31 ページ）で指定した曲だけを再生できます。

1 ITS 再生する範囲を選んでおく

ITS 再生は、再生範囲切換で選んだ範囲で行われます
（➡「繰り返し再生する」27 ページ）

2 ITS プレイ設定にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ
（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」26 ページ）

3 ITS 再生を ON にする

ロータリーコマンダーを押す
もう一度押すと、OFF になります。

4 ふだんの再生画面にする

B ボタンを押す

メモ

●手順 1 で選んだ再生範囲に、指定した曲がない場合は、「ITS empty」が 2 秒間表示され、ITS 再生は始まりません。

曲の指定を 1 曲ずつ解除する

マルチ CD（別売）の機能です。

ITS 指定（➡「聞きたい曲を指定する」31 ページ）で指定した曲を 1 曲ずつ解除できます。

1 ITS 再生を ON にする

（➡「指定した曲だけ再生する」）

2 指定を解除したい曲を再生する

ロータリーコマンダーを左右に操作する

3 ITS 登録にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ
（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」26 ページ）

4 指定を解除する

ロータリーコマンダーを下に操作する

5 ふだんの再生画面にする

B ボタンを押す

メモ

●現在の再生範囲に、ITS 指定された曲がなくなった場合は、「Memory deleted」が 2 秒間表示され、ITS 再生が OFF になります。

曲の指定を CD ごとに解除する

マルチ CD（別売）の機能です。

ITS 指定（➡「聞きたい曲を指定する」31 ページ）で指定した曲を CD ごとに解除できます。

1 ITS 再生を OFF にする

（➡「指定した曲だけ再生する」32 ページ）

2 指定を解除したいCDを再生する

ロータリーコマンダーを上下に操作する

3 ITS 登録にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」26 ページ）

4 指定を解除する

ロータリーコマンダーを下に操作する

「Memory deleted」が 2 秒間表示され、指定が解除されたことを知らせます。

5 ふだんの再生画面にする

B ボタンを押す

CD のタイトルを入力する

タイトル入力

CD のタイトルを入力して、本機に登録できます。登録したタイトルは、本機のディスプレイに表示できます。

ご注意

- 「CD TEXT」を再生しているときや、タイトル入力機能のないマルチ CD を組み合わせたときは、操作できません。

1 タイトル入力したいCDを再生する

2 タイトル入力にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」26 ページ）

3 入力する文字の種類を選ぶ

D/Scrl ボタンを押す

ボタンを押すごとに、次の順序で文字の種類が切り換わります。

→ アルファベットの大文字・数字・記号（!、#、& など）・空白（_）
↓
アルファベットの小文字・空白（_）
↓
数字・記号（!、#、& など）・空白（_）
↓
カタカナ・音引き（ー）・空白（__）
↓
拗促音（ァ、ョ、ッなど）・濁点・半濁点・空白（__）

次のページへ続く

CD のタイトルを入力する

<つづき>

タイトル入力

4 タイトルを入力する

■ 入力したい文字を選ぶとき

次の文字を選ぶ：
ロータリーコマンダーを上に操作する

前の文字を選ぶ：
ロータリーコマンダーを下に操作する

■ 入力したい位置にカーソルを移動するとき

右に移動する：
ロータリーコマンダーを右に操作する

左に移動する：
ロータリーコマンダーを左に操作する

5 入力が終わったら、10文字目を点滅する

ロータリーコマンダーを右に操作する

6 入力したタイトルを登録する

ロータリーコマンダーを右に操作する

入力位置の点滅が終わると、入力したタイトルが登録されます。

7 ふだんの再生画面にする

B ボタンを押す

タイトル入力中（文字が点滅しているとき）に B ボタンを押すと、タイトル入力画面が解除されて、ふだんの再生画面に戻ります。（入力中のタイトルは登録されません。）

メモ

- タイトルは、10 文字まで入力できます。
- 内蔵 CD には、CD48 枚分のタイトルを登録できます。
- マルチ CD には、ITS 指定（➡「聞きたい曲を指定する」31 ページ）と合わせて、CD100 枚分のタイトルを登録できます。
- 48 枚（マルチ CD 接続時は、100 枚）を超えたときは、一番古い CD のタイトルが消されて、新しい CD のタイトルが登録されます。
- CD を取り出しても、登録したタイトルは削除されません。

タイトルやアーティスト名を表示させる

トラックタイトルやディスクタイトル、アーティスト名などを表示させることができます。また、隠れている文字をスクロール表示させることもできます。

1 表示を切り換える

D/Scrl ボタンを押す

ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります。

CD M-CD （CD-DA 再生時）

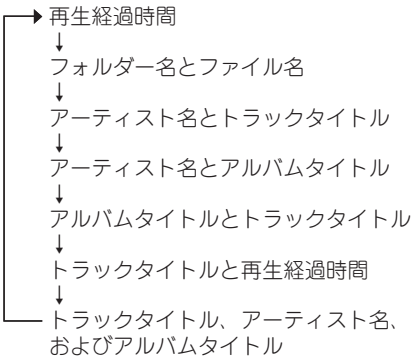
→ 再生経過時間
↓
ディスクタイトル（あらかじめ登録しておいた場合）と再生経過時間

CD M-CD （「CD TEXT」再生時）

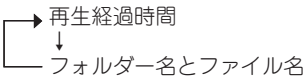
→ 再生経過時間
↓
ディスクアーティスト名と
トラックタイトル
↓
ディスクアーティスト名と
ディスクタイトル
↓
ディスクタイトルと
トラックタイトル
↓
トラックアーティスト名と
トラックタイトル
↓
トラックタイトルと
再生経過時間
↓
トラックタイトル、トラックアーティスト名、およびディスクタイトル（内蔵 CD の場合）

タイトルを見て聞きたいCDをさがす

CD-ROM（WMA ／ MP3 ／ AAC 再生時）



CD-ROM（WAV 再生時）



知っていると便利

- 隠れている文字を表示させるには、D/Scrl ボタンを長く押します。

メモ

- 本機の文字表示は、ひらがなや漢字などにも対応しています。
- タイトル名などが収録されていないディスクで表示を切り換えると、タイトル表示は空白になります。
- WMA ファイルをエンコードした Windows Media Player のバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- MP3 ファイルや AAC ファイルをライティングした iTunes のバージョンによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。

マルチ CD（別売）の機能です。

CD のタイトル一覧（ディスクリスト）を見ながら、聞きたい CD を選べます。

1 聞きたい CD を選ぶ

ロータリーコマンダーを回す

ロータリーコマンダーを回すごとに CD のタイトルが切り換わります。

次の CD を選ぶ：右に回す

前の CD を選ぶ：左に回す

2 選んだ CD を再生する

聞きたい CD を選んでいるときに、ロータリーコマンダーを押す

「CD TEXT」を選んだ場合、ロータリーコマンダーを右に操作すると、トラックリスト（➡「曲名を見て聞きたい曲をさがす」36 ページ）を表示できます。

知っていると便利

- ロータリーコマンダーを上下に操作して、聞きたい CD を選ぶこともできます。
- 隠れている文字を表示させるには、D/Scrl ボタンを長く押します。

メモ

- リスト表示については（➡「各部のなまえ」11 ページ）
- マガジンに CD がセットされていないときは、「NO DISC」と表示されます。また、タイトルが入力されていない CD では、「NO TITLE」と表示されます。
- ふだんの再生画面に戻るときは、B ボタンを押します。（30 秒間何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります。）

曲名を見て聞きたい曲をさがす

「CD TEXT」再生中に、曲名の一覧（トラックリスト）を見ながら、聞きたい曲を選べます。

1 聞きたい曲を選ぶ

ロータリーコマンダーを回す

ロータリーコマンダーを回すごとに曲名が切り換わります。

次の曲を選ぶ：右に回す

前の曲を選ぶ：左に回す

2 選んだ曲を再生する

聞きたい曲を選んでいるときに、ロータリーコマンダーを押す

知っていると便利

- ロータリーコマンダーを上下に操作して、聞きたい曲を選ぶこともできます。
- 隠れている文字を表示させるには、D/Scrl ボタンを長く押します。

メモ

- リスト表示については（➡「各部のなまえ」11 ページ）
- 「CD TEXT」に、曲名が収録されていないときは、「NO TITLE」が表示されます。
- ふだんの再生画面に戻るときは、B ボタンを押します。（30 秒間何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります。）

タイトルを見て聞きたいフォルダーや曲をさがす

圧縮オーディオファイル再生中に、ファイル名やフォルダー名の一覧（フォルダー／ファイルリスト）を見ながら、聞きたいファイルやフォルダーを選べます。

1 聞きたいフォルダー／ファイルを選ぶ

ロータリーコマンダーを回す

ロータリーコマンダーを回すごとにフォルダー名やファイル名が切り換わります。

次のフォルダー（ファイル）を選ぶ：右に回す

前のフォルダー（ファイル）を選ぶ：左に回す

選んでいるフォルダーの中に収録されているフォルダーや曲（ファイル）の数を表示します。

2 聞きたい曲が入っているフォルダを選ぶ

聞きたいファイルが入っているフォルダーを選んでいるときに、ロータリーコマンダーを右に操作する

選んだフォルダーに収録されているフォルダーやファイルのリストが表示されます。

3 選んだ曲を再生する

聞きたいファイルを選んでいるときに、ロータリーコマンダーを押す

知っていると便利

- ロータリーコマンダーを上下に操作して、聞きたいファイル名やフォルダー名を選ぶこともできます。
- ロータリーコマンダーを左に操作すると、1つ前のリスト（1つ上の階層）に戻ります。
- フォルダーを選んでいるときにロータリーコマンダーを長く押すと、そのリスト内の曲を最初からすべて再生できます。ロータリーコマンダーを右に長く操作することでも可能です。
- ロータリーコマンダーを右に操作して、リストを選ぶこともできます。
- 最上位の階層に戻るには、ロータリーコマンダーを左に長く操作します。
- 隠れている文字を表示させるには、D/Scrl ボタンを長く押します。

メモ

- リスト表示については（➡「各部のなまえ」11 ページ）
- フォルダー／ファイルリストは、必ず「ROOT」から表示されます。
- ディスク内に再生できるファイルがない場合、「NO AUDIO」が表示されます。
- フォルダー内に再生できるファイルがない場合、ロータリーコマンダーを長く押しても再生しません。
- リスト表示中のフォルダー番号は、実際の番号とは異なります。
- ふだんの再生画面に戻るときは、B ボタンを押します。（30 秒間何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります。）
- 収録ファイル数が多く、リスト番号が 3 桁になる場合は、下 2 桁だけが表示されます。

放送局を 1 局ずつ登録する

よく聞く放送局を 1 局ずつ手動で登録できます（プリセットメモリー）。登録した放送局は、手軽に受信できます。

1 登録するバンドを選ぶ

B ボタンを押す

2 登録したい放送局を選ぶ

ロータリーコマンダーを左右に操作する

3 登録したいプリセット番号を選ぶ

ロータリーコマンダーを回す

プリセット番号は1～6の中から選べます。

4 放送局を登録する

ロータリーコマンダーを長く押す

登録動作中に押したプリセット番号（登録番号）が点滅します。
登録が完了するとプリセット番号の点滅が終わり、その放送局を受信します。

登録した放送局を呼び出す

BSM やプリセットメモリーで登録した放送局を、手軽に受信できます。

1 放送局を登録したバンドを選ぶ

B ボタンを押す

2 プリセット番号順に放送局を受信する

ロータリーコマンダーを上下に操作する

ファンクションメニューの切り換えかた

「複数の放送局を自動的に登録する」「放送局名を選ぶ」などの便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例

使いたい機能を選ぶ

1 メインメニューを表示する

ロータリーコマンダーを押す

2 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンダーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンダーを押す

3 機能を切り換える

ロータリーコマンダーを回す

ロータリーコマンダーを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります。

BSM 設定
（➡「複数の放送局を自動的に登録する」）
↕
放送局名選択
（➡「放送局名を選ぶ」41 ページ）

メモ

- ふだんの受信画面に戻るときは、B ボタンを押します。（30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。）

複数の放送局を自動的に登録する

BSM

受信状態の良い放送局を自動でさがして登録できます。登録された放送局は、手軽に受信できます。

BSM とは

- BSM は、「Best Stations Memory（ベストステーションズメモリー）」の略です。

1 登録するバンドを選ぶ

B ボタンを押す

2 BSM 設定にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ
（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」）

3 BSM を始める

ロータリーコマンダーを押す

登録が完了するとステーションリストに切り換わり、1 のプリセット番号に登録された放送局を受信します。

メモ

- 登録動作中にロータリーコマンダーを押すと、BSM の登録処理を途中でやめることができます。

4 聞きたい放送局を選ぶ

ロータリーコマンダーを回す

ロータリーコマンダーを回すごとに放送局が切り換わります。

次の放送局を選ぶ：右に回す
前の放送局を選ぶ：左に回す

次のページへ続く

複数の放送局を自動的に登録する <つづき>

BSM

5 選んだ放送局を受信する

聞きたい放送局を選んでいるときに、ロータリーコマンダーを押す

メモ

- 受信状態の良い放送局が 6 局より少ないときは、前に登録した内容が残ることがあります。
- ふだんの受信画面に戻るときは、B ボタンを押します。(30 秒間、何も操作しないと自動的にふだんの受信画面に戻ります。)

知っていると便利

- バンド 1 とバンド 2 を切り換えて使うことで、より多くの放送局を登録できます。たとえば、バンド 1 にはふだんよく聞く放送局を登録しておきます。旅行先などで、どんな放送局があるか知らない地域に行ったときに、バンド 2 に切り換えて BSM を使うと便利です。バンド 1 に登録した放送局を消さずに、バンド 2 でその地域の放送局を受信できます。
- BSM は、リモコンの DF ボタンを長く押しても操作できます。(➡「よく使う機能を直接操作する」101 ページ)

放送局名を見て聞きたい放送局を呼び出す

1 ～ 6 のプリセット番号に登録した放送局を、放送局名の一覧(ステーションリスト)の中からさがすことができます。

1 バンドを選ぶ

B ボタンを押す

2 聞きたい放送局を選ぶ

ロータリーコマンダーを回す

ロータリーコマンダーを回すごとに放送局名が切り換わります。

次の放送局を選ぶ：右に回す

前の放送局を選ぶ：左に回す

3 選んだ放送局を受信する

聞きたい放送局を選んでいるときに、ロータリーコマンダーを押す

知っていると便利

- ロータリーコマンダーを長く押すと、選んでいるプリセット番号に、現在受信している放送局を登録することができます。

メモ

- リスト表示については(➡「各部のなまえ」11 ページ)
- 表示されている放送局名が受信している放送局と異なる場合、放送局名を変更することができます。(➡「放送局名を選ぶ」41 ページ)
- 放送局名が登録されていない放送局の場合、周波数が表示されます。
- ふだんの受信画面に戻るときは、B ボタンを押します。(30 秒間、何も操作しないと自動的にふだんの受信画面に戻ります。)

放送局名を選ぶ

放送局名選択

受信している放送局の放送局名を選べます。表示されている放送局名が、受信している放送局の名称と異なる場合、正しい放送局名に変更することができます。

ご注意

●本機に登録されていない放送局名は選べません。

1 実際の放送局名と表示が異なる場合、放送局名選択にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」39 ページ）

2 放送局名を選ぶ

ロータリーコマンダーを左右に操作する

3 選んだ放送局名に変更する

ロータリーコマンダーを押す

4 ふだんの受信画面にする

B ボタンを押す

知っていると便利

●放送局名を表示させたくないときは、すべて空白の表示を選びます。
●パイオニア製の FM モジュレータータイプのマルチ CD をお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせると、放送局名を「FM M-CD」に変更できます。
●パイオニア製の TV を FM モジュレーターでお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせると、放送局名を「TVsound」に変更できます。

メモ

●選んだ周波数に該当する放送局名が登録されていない場合、「放送局データなし」と表示されます。

放送局名を表示する

受信している放送局の放送局名を表示できます。

1 放送局名を表示する

D/Scrl ボタンを押す

もう一度押すと、放送局名表示が消えます。

知っていると便利

●表示されている放送局名が、受信している放送局の名称と異なる場合、正しい放送局名に変更できます。（➡「放送局名を選ぶ」）

ファンクションメニューの切り換えかた

「繰り返し再生する」「違う曲順で再生する」などの便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例

使いたい機能を選ぶ

1 メインメニューを表示する

ロータリーコマンダーを押す

2 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンダーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンダーを押す

3 機能を切り換える

ロータリーコマンダーを回す

ロータリーコマンダーを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります。

再生範囲切換（➡「繰り返し再生する」）
↕
ランダムプレイ設定(➡「違う曲順で再生する」)
↕
スキャンプレイ設定（➡「曲をさがす」）
↕
ポーズ設定（➡「再生を一時停止する」）

メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、B ボタンを押します。(30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)

ファンクションメニューの機能は、CD の場合と基本的に同じです。操作方法については、CD のページをご覧ください。

機　能	操　作
再生範囲切換	**(➡「繰り返し再生する」27 ページ)** 切り換わる再生範囲は、CD の場合とは異なります。 → All repeat（オールリピート） ↓ Track repeat（トラックリピート） ↓ Folder repeat（フォルダーリピート） オールリピート： すべての曲を繰り返し再生します。 トラックリピート： いま聞いている曲を繰り返し再生します。 フォルダーリピート： いま聞いているフォルダーを繰り返し再生します。
ランダムプレイ設定	**(➡「違う曲順で再生する」28 ページ)**
スキャンプレイ設定	**(➡「曲／フォルダー／ディスクをさがす」28 ページ)**
ポーズ設定	**(➡「再生を一時停止する」29 ページ)**

タイトルやアーティスト名を表示させる

トラックタイトルやアーティスト名などを表示できます。また、隠れている文字をスクロールすることもできます。操作方法は、CD の場合と同じです（➡ 34 ページ）。

タイトルを見て聞きたいフォルダーや曲をさがす

ファイル名やフォルダー名の一覧（フォルダー／ファイルリスト）を見ながら、聞きたいファイルやフォルダーを選べます。操作方法は、CD の場合と同じです（➡ 36 ページ）。

チャプターを選ぶ

USB 接続時のみ操作できる機能です。

再生しているオーディオブックにチャプターがある場合、チャプターを選べます。

1 チャプターを切り換える

ロータリーコマンダーを左右に操作する

次のチャプターを選ぶ：右に操作する
前のチャプターを選ぶ：左に操作する

聞きたい曲をさがす

ジャンル、アーティスト、アルバムなどの項目から、お好みの曲を選んで再生できます。

ご注意

- iPod に保存してあるファイルの数によっては、項目の表示に時間がかかる場合があります。
- 本機が表示できない文字が iPod に記録されている場合、その文字は表示されません。
- iPod アダプターを使用している場合、「作曲者」「Podcast」「オーディオブック」は選べません。

1 項目を選ぶ

ロータリーコマンダーを回して項目を選び、ロータリーコマンダーを押す

プレイリスト、アーティスト、アルバム、曲、Podcast（ポッドキャスト）、ジャンル、作曲者、オーディオブックの中から選べます。

2 項目を絞り込む

手順 1 の操作を繰り返して、項目を絞り込むことができます。

3 お好みの曲を選ぶ

ロータリーコマンダーを回してお好みの曲を選び、ロータリーコマンダーを押す

お好みの曲の再生が始まります。

知っていると便利

- ロータリーコマンダーを上下に操作して、項目を選ぶこともできます。
- ロータリーコマンダーを左に操作すると、前の項目（1 つ上の階層）に戻ります。
- 再生したい項目を選んでいるときにロータリーコマンダーを長く押すと、その項目内の曲を最初からすべて再生できます。ロータリーコマンダーを右に長く操作することでも可能です。
- ロータリーコマンダーを右に操作して、項目を選ぶこともできます。
- 最上位の階層に戻るには、ロータリーコマンダーを左に長く操作します。
- ふだんの再生画面に戻るときは、B ボタンを押します。（30 秒間、何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります。）
- 隠れている文字を表示させるには、D/Scrl ボタンを長く押します。
- リスト表示については（➡「各部のなまえ」11 ページ）

リスト表示をアルファベットで検索する

USB 接続時のみ操作できる機能です。

アーティストやアルバムなどのリスト表示中に、頭文字のアルファベットを指定して検索できます。

ご注意

- アルファベット順に表示されるリストのときに操作できます。
- 頭文字が、半角のアルファベット、数字、および記号で記録されているものが対象です。

1 アーティストやアルバムなどのリストを表示する

「聞きたい曲をさがす」の手順 1 ～ 4 を参照して、アーティストやアルバムなどのリストを表示する

（➡「聞きたい曲をさがす」44 ページ）

2 アルファベットサーチモードに切り換える

リスト表示中に D/Scrl ボタンを押す

もう一度 D/Scrl ボタンを押すと、アルファベットサーチモードを解除します。

3 アルファベットを選ぶ

ロータリーコマンダーを回して検索したいアルファベットを表示し、ロータリーコマンダーを押す

指定したアルファベットを先頭にして、リストが表示されます。

ご注意

- 対象となる曲がなかったときは、「NOT FOUND」が表示されたあとリスト表示に戻ります。

4 お好みの曲を選ぶ

ロータリーコマンダーを操作してお好みの曲を選ぶ

（➡「聞きたい曲をさがす」44 ページ）

タイトルやアーティスト名を表示させる

iPod に記録されている曲名やアーティスト名、アルバムタイトルなどを表示させることができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見ることもできます。

1 表示を切り換える

D/Scrl ボタンを押す

ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります。

■ USB で接続しているとき

再生経過時間
↓
アーティスト名と曲名
↓
アーティスト名とアルバムタイトル
↓
アルバムタイトルと曲名
↓
曲名と再生経過時間
↓
曲名、アーティスト名、およびアルバムタイトル

■ iPod アダプターで接続しているとき

再生経過時間
↓
アーティスト名と曲名
↓
アーティスト名とアルバムタイトル
↓
アルバムタイトルと曲名
↓
曲名と再生経過時間

知っていると便利

●隠れている文字を表示させるには、D/Scrl ボタンを長く押します。

メモ

●本機の文字表示は、ひらがなや漢字などにも対応しています。
●本機が表示できない文字が iPod に記録されている場合、その文字は表示されません。

ファンクションメニューの切り換えかた

「繰り返し再生する」「違う曲順で再生する」などの便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例

使いたい機能を選ぶ

1 メインメニューを表示する

ロータリーコマンダーを押す

2 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンダーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンダーを押す

3 機能を切り換える

ロータリーコマンダーを回す

ロータリーコマンダーを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります。

■ USB で接続しているとき

再生範囲切換
↕
シャッフル設定
（➡「違う曲順で再生する」48 ページ）
↕
シャッフルオール設定
（➡「すべての曲をシャッフルしてから再生する」48 ページ）
↕
リンクプレイ
（➡「再生中の曲にリンクした曲を再生する」49 ページ）
↕
操作設定
（➡「iPod から本機の iPod 機能を操作する」49 ページ）
↕
ポーズ設定
↕
オーディオブック
（➡「オーディオブックの再生速度を変更する」50 ページ）

■ iPod アダプターで接続しているとき

再生範囲切換
↕
シャッフル設定（➡「違う曲順で再生する」）
↕
ポーズ設定

メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、B ボタンを押します。（30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。）
- 「操作設定」を「iPod」にした場合、「操作設定」、「ポーズ設定」以外には切り換わりません。

ファンクションメニューの以下の機能は、CD の場合と基本的に同じです。操作方法については、CD のページをご覧ください。

機　能	操　作
再生範囲切換	**（➡「繰り返し再生する」27 ページ）** 切り換わる再生範囲は、CD の場合とは異なります。 → Repeat one（1 曲リピート） ↓ Repeat All（リスト内全曲リピート） 1 曲リピート： いま聞いている曲を繰り返し再生します。 リスト内全曲リピート： いま聞いているリスト内のすべての曲を繰り返し再生します。
ポーズ設定	**（➡「再生を一時停止する」29 ページ）**

違う曲順で再生する

シャッフル

曲やアルバムを順不同（ランダム）に再生できます。いつもと違った曲順で音楽を楽しみたいときに便利です。

1 シャッフル設定にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」46 ページ）

2 シャッフル設定を切り換える

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、次の順序でシャッフル設定が切り換わります。

Shuffle OFF（オフ）
↓
Shuffle Songs（ソングシャッフル）
↓
Shuffle Albums（アルバムシャッフル）

ソングシャッフル：
いま聞いているリスト内の曲をランダムに再生します。

アルバムシャッフル：
アルバムをランダムに選び、選んだアルバム内の曲を順番通りに再生します。

3 ふだんの再生画面にする

B ボタンを押す

すべての曲をシャッフルしてから再生する

シャッフルオール

USB 接続時のみ操作できる機能です。

iPod のミュージックライブラリ内のすべての曲を順不同（ランダム）に再生できます。

1 シャッフルオール設定にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」46 ページ）

2 全曲シャッフル再生を始める

ロータリーコマンダーを押す

「ON」が 2 秒間表示され、全曲シャッフル再生が始まります。

3 ふだんの再生画面にする

B ボタンを押す

メモ

●全曲シャッフルを解除するには、「シャッフル設定」で「Shuffle OFF」を選びます。（➡「違う曲順で再生する」）

再生中の曲にリンクした曲を再生する

リンクプレイ

USB 接続時のみ操作できる機能です。

アーティストの他のアルバムや曲を聞きたくなったときに便利です。

ご注意

- iPodに保存してあるファイルの数によっては、リストの表示に時間がかかる場合があります。
- リンク元に関連したリストがない場合は、「見つかりません」と表示されます。

1 リンクプレイにする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」46 ページ）

2 リンク元を切り換える

ロータリーコマンダーを左右に操作する

ロータリーコマンダーを左右に操作するごとにリンク元が次のように切り換わります。

アーティスト（再生中のアーティスト）
↕
アルバム（再生中のアルバム）
↕
ジャンル（再生中のジャンル）

3 リンク元を選ぶ

ロータリーコマンダーを押す

リンク元に関連した曲が再生されます。

アーティスト：再生中のアーティストの曲
アルバム：　再生中のアルバムに収録されている曲
ジャンル：　再生中のジャンルの曲

4 アルバムまたは曲を選ぶ

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「聞きたい曲をさがす」44 ページ）

iPod から本機の iPod 機能を操作する

操作設定

USB 接続時のみ操作できる機能です。

接続した iPod から本機の iPod 機能を操作できます。

ご注意

- 以下の iPod では本機能は使用できません。
  － 第 5 世代 iPod
  － 第 1 世代 iPod nano
  最新の情報については、カロッツェリアホームページ（http://carrozzeria.jp）をご覧ください。

1 操作設定にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」46 ページ）

2 操作設定を切り換える

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに「iPod」と「AUDIO」が切り換わります。

iPod：iPod で選曲などの操作をします。

AUDIO：本機で選曲などの操作をします。

3 ふだんの再生画面にする

B ボタンを押す

次のページへ続く

iPod から本機の iPod 機能を操作する <つづき>

操作設定

ご注意

- 「iPod」に設定した場合は、以下の制限があります。
  - ファンクションメニューの機能は、「操作設定」、「ポーズ設定」以外には切り換わりません。
  - ブラウズモード（➡「聞きたい曲をさがす」44 ページ）には切り換わりません。
  - 音量は本機からしか調節できません。
- 「iPod」に設定すると、再生は停止されます。iPod を操作して、再生してください。

知っていると便利

- 「操作設定」を「iPod」設定していても、本機から次の操作ができます。
  - 音量の調節
  - 選曲
  - 早送り／早戻し
  - ポーズ（一時停止）
  - タイトルの表示切り換え

オーディオブックの再生速度を変更する

オーディオブック

USB 接続時のみ操作できる機能です。

オーディオブックの再生中に、オーディオブックの再生速度を変更できます。

1 オーディオブックにする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」46 ページ）

2 再生速度を切り換える

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、次の順序で再生速度が切り換わります。

標準
↓
やや速い
↓
やや遅い

3 ふだんの再生画面にする

B ボタンを押す

Bluetooth アダプターの組み合わせについて

本機と Bluetooth アダプター（例：「CD-BTB10」）を組み合わせて、Bluetooth 対応のオーディオプレーヤーを使用することができます。ここでは、基本的な操作方法を説明しています。詳しくは、組み合わせた Bluetooth アダプターの取扱説明書をご覧ください。

画面例

メモ

- 組み合わせる Bluetooth 対応機器によっては、操作や動作が異なる場合があります。Bluetooth 対応機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

BT Audio のふだんの操作

Bluetooth 対応機器を本機のソースとして使用できます。

ご注意

- Bluetooth 対応機器を本機の BT Audio ソースとして使用する場合、以下の設定を行う必要があります。
  - BT Audio ソースを ON にする（➡「Bluetooth Audio ソースを ON にする」98 ページ）
  - パスコードを編集する（➡「Bluetooth のパスコードを変更する」98 ページ）
  - Bluetooth 接続する（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」52 ページ）

1 ソースを BT Audio にする

SRC/Vol ボタンを押す

2 聞きたい曲を選ぶ（または早送り／早戻しをする）

ロータリーコマンダーを左右に操作する

■ 聞きたい曲を選ぶとき

次の曲を選ぶ：右に操作する
前の曲を選ぶ：左に操作する

■ 早送り／早戻しをするとき

早送り：右に操作し続ける
早戻し：左に操作し続ける

3 BT Audio の再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源を OFF にする

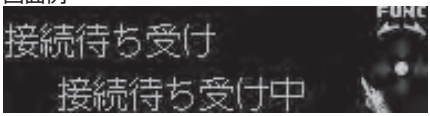
メモ

- 組み合わせる Bluetooth 対応機器によっては、早送り／早戻し中に音声が出ない場合があります。

ファンクションメニューの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例



使いたい機能を選ぶ

1 メインメニューを表示する

ロータリーコマンダーを押す

2 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンダーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンダーを押す

3 機能を切り換える

ロータリーコマンダーを回す

ロータリーコマンダーを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります。

■ BT Audio が接続されていないとき

接続待ち受け
↕
デバイス情報

■ BT Audio が接続されているとき

接続解除設定
↕
再生
↕
停止
↕
ポーズ設定
↕
デバイス情報

4 選んだ機能を操作する

接続待ち受け

ロータリーコマンダーを押すと、Bluetooth 対応機器の接続待ち受け状態になります。Bluetooth 対応機器を操作して、本システムと接続します。

接続解除設定

ロータリーコマンダーを押すと、Bluetooth 接続を解除します。

再生

ロータリーコマンダーを押すと、Bluetooth 対応機器の再生を始めます。

停止

ロータリーコマンダーを押すと、Bluetooth 対応機器の再生を停止します。

ポーズ設定

ロータリーコマンダーを押すごとに、ON／OFF します。

デバイス情報

（➡「本システムのデバイス情報を確認する」53 ページ）

メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、B ボタンを押します。（30 秒間何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります。）ただし、「接続待ち受け」「接続解除設定」を選んでいる場合は、自動では戻りません。

ご注意

- BT Audio が A2DP（音声再生のみ）で接続されている場合、「再生」、「停止」、「ポーズ設定」には、切り換わりません。

本システムのデバイス情報を確認する

デバイス情報

1 デバイス情報にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

本システムのデバイス名が表示されます。

2 デバイスアドレスを表示する

ロータリーコマンダーを左に操作する

ロータリーコマンダーを右に操作すると、デバイス名表示に戻ります。

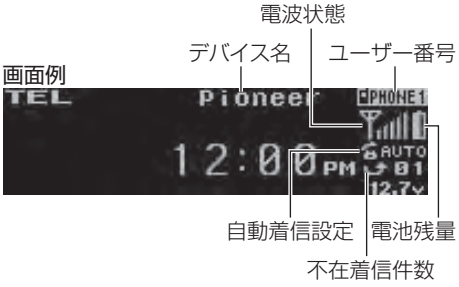
3 ふだんの再生画面にする

B ボタンを押す

Bluetooth アダプターの組み合わせについて

本機と Bluetooth アダプター（例：「CD-BTB10」）を組み合わせて、Bluetooth 対応の携帯電話を使用することができます。ここでは、基本的な操作方法を説明しています。詳しくは、組み合わせた Bluetooth アダプターの取扱説明書をご覧ください。

画面例



メモ

●組み合わせる Bluetooth 対応の携帯電話によっては、操作や動作が異なります。携帯電話の取扱説明書も併せてご覧ください。

電話の待ち受けソースにする

電話の待ち受けソース（TEL）では、本システムに接続した Bluetooth 対応の携帯電話のさまざまな設定を行うことができます。

ご注意

●本機で、Bluetooth 対応の携帯電話を使用して、ハンズフリー通話をするには、Bluetooth 接続を行う必要があります。（➡「携帯電話を接続する」58 ページ）

1 ソースを電話の待ち受けにする

SRC/Vol ボタンを押す

音声操作で電話をかける

音声認識機能のある携帯電話を接続している場合、音声認識機能で電話をかけることができます。音声操作について、詳しくは携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 音声認識機能のない携帯電話では、「機能がありません」と表示されて、操作できません。
- 音声認識機能のある携帯電話でも、HFP 接続できていない場合は、操作できません。

1 音声認識画面を表示する

B ボタンを長く押す

2 相手に発信する

電話をかけたい相手の名前を発話する

かかってきた電話に出る

どのソースを聞いているときでも、本機の電源が OFF のときでも、かかってきた電話に出ることができます。

かかってきた電話に出る

1 通話を開始する

電話がかかってきたら、ロータリーコマンダーを押す

2 通話中の相手声の音量（受話音量）を調節する

通話中に、ロータリーコマンダーを回す

3 通話を終了する

ロータリーコマンダーを下に操作する

通話中にかかってきた別の電話に出る（割込通話）

ご注意

- 割込通話機能の利用には、携帯電話会社との契約が必要です。
- 割込通話中は、通話の相手を切り換えることはできますが、通話を個別に切ることはできません。

1 通話を開始する

電話がかかってきたら、ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、通話の相手が切り換わります。

2 通話を終了する

ロータリーコマンダーを下に操作する

通話中の相手だけでなく、保留にしている相手の電話も切れます。

かかってきた電話を切る（着信拒否）

電話に出られないときは、着信を拒否できます。また、通話中にかかってきた別の電話の着信を拒否することもできます。

かかってきた電話を切る

1 着信を拒否する

電話がかかってきたら、ロータリーコマンダーを下に操作する

知っていると便利

- 手動で着信拒否をした場合、電話番号が不在着信履歴に残ります。（➡「履歴から電話をかける」64 ページ）
- すべての着信を自動で拒否することもできます。この場合、電話番号は不在着信履歴には残りません。（➡「着信拒否を設定する」66 ページ）

通話中にかかってきた別の電話を切る

ご注意

- 通話中にかかってきた電話は、手動で着信拒否をした場合でも、電話番号は不在着信履歴に残りません。

1 通話中の着信を拒否する

電話がかかってきたら、ロータリーコマンダーを下に操作する

ファンクションメニューの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例

使いたい機能を選ぶ

1 メインメニューを表示する

ロータリーコマンダーを押す

2 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンダーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンダーを押す

3 機能を切り換える

ロータリーコマンダーを回す

ロータリーコマンダーを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります。

■ 携帯電話が接続されていないとき

BT 機器接続設定
（➡「携帯電話を接続する」58 ページ）
↕
接続待ち受け
（➡「携帯電話を接続する」58 ページ）
↕
電話機接続設定（➡「登録されている携帯電話を接続する」60 ページ）
↕
電話機登録削除（➡「携帯電話の登録を削除する」61 ページ）
↕

電話帳転送（➡「携帯電話の電話帳を転送する」61 ページ）
↕
着信拒否設定
（➡「着信拒否を設定する」66 ページ）
↕
自動着信設定
（➡「自動着信を設定する」67 ページ）
↕
着信 BEEP 音設定（➡「着信音を ON ／ OFF する」66 ページ）
↕
自動接続設定（➡「登録されている携帯電話を接続する」60 ページ）
↕
エコーキャンセル設定（➡「通話中のノイズやエコーを軽減する」65 ページ）
↕
デバイス情報（➡「本システムのデバイス情報を確認する」67 ページ）

■ 携帯電話が接続されているとき

接続解除設定
（➡「Bluetooth 接続を解除する」59 ページ）
↕
電話機登録設定*1
（➡「携帯電話を登録する」59 ページ）
↕
電話機登録削除（➡「携帯電話の登録を削除する」61 ページ）
↕
電話帳転送（➡「携帯電話の電話帳を転送する」61 ページ）
↕
電話帳表示切換*2（➡「電話帳の表示方法を切り換える」62 ページ）
↕
ユーザーメモリー消去*3
（➡「データを消去する」64 ページ）
↕
ナンバー入力発信（➡「電話番号を入力して電話をかける」65 ページ）
↕
着信拒否設定
（➡「着信拒否を設定する」66 ページ）
↕
自動着信設定
（➡「自動着信を設定する」67 ページ）
↕
着信 BEEP 音設定（➡「着信音を ON ／ OFF する」66 ページ）
↕
自動接続設定（➡「登録されている携帯電話を接続する」60 ページ）
↕
エコーキャンセル設定（➡「通話中のノイズやエコーを軽減する」65 ページ）
↕
デバイス情報（➡「本システムのデバイス情報を確認する」67 ページ）

メモ

- 電話の待ち受け画面に戻るときは、B ボタンを押します。
- 30 秒間何も操作しないと、電話の待ち受け画面に自動的に戻ります。ただし、次の機能の場合は自動では戻りません。
  「BT 機器接続設定」「接続待ち受け」「接続解除設定」「電話機接続設定」「電話帳転送」「ユーザーメモリー消去」「ナンバー入力発信」

＊1 接続中の電話機が登録されているときは、「電話機登録設定」には切り換わりません。
＊2 接続中の電話機がユーザーとして登録されているときに、「電話帳表示切換」に切り換わります。
＊3 接続中の電話機が登録されているときに、「ユーザーメモリー消去」に切り換わります。

携帯電話を接続する

BT 機器接続設定 / 接続待ち受け

接続可能な携帯電話を検索して接続する

1 BT 機器接続設定にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」56 ページ）

2 接続可能な携帯電話を検索する

ロータリーコマンダーを押す

接続可能な携帯電話が見つかると、デバイス名（機器名称）が表示されます。

接続可能な携帯電話が複数台見つかった場合は、ロータリーコマンダーを上下に操作して、接続する携帯電話を選びます。

3 携帯電話をBluetooth接続する

もう一度､ロータリーコマンダーを押す

接続を完了するには、携帯電話で本システムのデバイス名を確認し、パスコードを入力します。接続が完了すると、「接続しました」と表示されます。

4 電話の待ち受け画面にする

B ボタンを押す

知っていると便利

- ロータリーコマンダーを左右に操作すると、携帯電話のデバイス名（機器名称）とデバイスアドレスを切り換えることができます。

メモ

- パスコードの初期設定は、「0000」です。パスコードは変更できます。（➡「Bluetoothのパスコードを変更する」98 ページ）
- 携帯電話のデバイス名が取得できなかった場合は、「Name not found」と表示されます。
- 接続可能な携帯電話が見つからなかった場合は、「見つかりません」と表示されます。

携帯電話から接続する

ご注意

- 携帯電話によって操作は異なります。詳しくは、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。
- 携帯電話によっては、パスコードの入力が必要になる場合があります。
- パスコードの初期設定は、「0000」です。パスコードは変更できます。（➡「Bluetoothのパスコードを変更する」98 ページ）

1 接続待ち受けにする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」56 ページ）

2 携帯電話からの接続待ち受け状態にする

ロータリーコマンダーを押す

3 携帯電話をBluetooth接続する

携帯電話を操作して、本システムと Bluetooth 接続する

4 電話の待ち受け画面にする

B ボタンを押す

Bluetooth 接続を解除する

接続解除

1 接続解除設定にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」56 ページ）

2 Bluetooth 接続を解除する

ロータリーコマンダーを押す

3 電話の待ち受け画面にする

B ボタンを押す

携帯電話を登録する

電話機登録

1 電話機登録設定にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」56 ページ）

2 登録する設定を選ぶ

ロータリーコマンダーを上下に操作する

P1（ユーザー 1）、P2（ユーザー 2）、P3（ユーザー 3）、G1（ゲスト 1）、G2（ゲスト 2）の中から選べます。

3 携帯電話を選んだ設定に登録する

ロータリーコマンダーを押す

ご注意

- すでに登録されている携帯電話は、別の設定に登録できません。

知っていると便利

- ロータリーコマンダーを左右に操作すると、携帯電話のデバイス名（機器名称）とデバイスアドレスを切り換えることができます。

4 電話の待ち受け画面にする

B ボタンを押す

ご注意

- ゲストとして登録された携帯電話では、一部操作できない機能があります。

登録されている携帯電話を接続する

電話機接続 / 自動接続

手動で接続する

1 電話機接続設定にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」56 ページ）

2 接続したい携帯電話の設定を選ぶ

ロータリーコマンダーを上下に操作する

P1（ユーザー 1）、P2（ユーザー 2）、P3（ユーザー 3）、G1（ゲスト 1）、G2（ゲスト 2）の中から選べます。

知っていると便利

●ロータリーコマンダーを左右に操作すると、携帯電話のデバイス名（機器名称）とデバイスアドレスを切り換えることができます。

3 選んだ携帯電話をBluetooth接続する

ロータリーコマンダーを押す

4 電話の待ち受け画面にする

B ボタンを押す

自動で接続する

1 自動接続設定にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」56 ページ）

2 自動接続設定を ON する

ロータリーコマンダーを押す

本システムに登録されている携帯電話と自動的に Bluetooth 接続を開始する待機状態になります。

3 電話の待ち受け画面にする

B ボタンを押す

メモ

●登録されている携帯電話でも、機種によっては自動接続できない場合があります。この場合は、手動で接続してください。

携帯電話の登録を削除する

電話機登録削除

1 電話機登録削除にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」56 ページ）

2 登録を削除したい携帯電話の設定を選ぶ

ロータリーコマンダーを上下に操作する

P1（ユーザー 1）、P2（ユーザー 2）、P3（ユーザー 3）、G1（ゲスト 1）、G2（ゲスト 2）の中から選べます。

知っていると便利

- ロータリーコマンダーを左右に操作すると、携帯電話のデバイス名（機器名称）とデバイスアドレスを切り換えることができます。

3 確認画面を表示する

ロータリーコマンダーを右に操作する

4 選んだ携帯電話の登録を削除する

ロータリーコマンダーを押す

5 電話の待ち受け画面にする

B ボタンを押す

携帯電話の電話帳を転送する

電話帳転送

1 電話帳転送にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」56 ページ）

2 電話帳転送の待機状態にする

ロータリーコマンダーを押す

3 電話帳を転送する

携帯電話を操作して、本システムに電話帳データを転送する

4 電話の待ち受け画面にする

B ボタンを押す

メモ

- 電話帳データの転送は、携帯電話を操作して行います。（携帯電話の操作方法については、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。）
- 使用している携帯電話によっては、文字などが正しく表示されない場合があります。

電話帳の表示方法を切り換える

電話帳表示切換

1 電話帳表示切換にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」56 ページ）

2 電話帳データの表示方法を切り換える

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、電話帳データの表示方法が切り換わります。

3 電話の待ち受け画面にする

B ボタンを押す

メモ

●電話帳データを転送した携帯電話によっては、表示方法を切り換えられない場合があります。

電話帳を使う

電話帳から電話をかける

1 リストモードにする

ロータリーコマンダーを回す

2 電話帳を表示する

D/Scrl ボタンを押す

ボタンを押すごとに次の順序で切り換わります。

電話帳→不在着信履歴→発信履歴→着信履歴→電話帳に戻る

3 電話をかけたい相手を選ぶ

ロータリーコマンダーを回す

次のデータを選ぶ：右に回す

前のデータを選ぶ：左に回す

4 選んだデータの詳細リストを表示する

ロータリーコマンダーを右に操作する

5 かけたい電話番号を選ぶ

電話番号が複数登録されている場合、ロータリーコマンダーを回す

次の電話番号を選ぶ：右に回す

前の電話番号を選ぶ：左に回す

6 選んだ電話番号に電話をかける

ロータリーコマンダーを押す

通話を終了するときは、ロータリーコマンダーを下に操作します。

メモ

- 詳細リスト表示中に D/Scrl ボタンを長く押すと、名前や電話番号をスクロール表示できます。
- ゲスト登録された携帯電話では、電話帳には切り換わりません。
- リスト表示は、30 秒間何も操作しないと自動的に電話の待ち受け画面に戻ります。

電話帳編集画面を表示する

1 電話帳から、編集したいデータの詳細リストを表示する

2 電話帳編集画面を表示する

ロータリーコマンダーを長く押す

3 編集する項目を選ぶ

ロータリーコマンダーを回す

電話番号編集、電話帳削除の中から選べます。

電話帳データの電話番号を編集する

1 電話番号編集画面にする

2 電話番号を編集する

ロータリーコマンダーを上下左右に操作する

■ 入力する数字を選ぶとき

次の数字を選ぶ：上に操作する
前の数字を選ぶ：下に操作する

■ 入力する位置を選ぶとき

右に移動する：右に操作する
左に移動する：左に操作する

3 編集した電話番号を登録する

ロータリーコマンダーを押す

詳細リストに戻ります。

電話帳データを削除する

1 電話帳削除画面にする

2 確認画面を表示する

ロータリーコマンダーを右に操作する

電話帳削除画面に戻すときは、ロータリーコマンダーを左に操作します。

3 選んだ電話帳データを削除する

ロータリーコマンダーを押す

3 行リスト表示に戻ります。

履歴から電話をかける

不在着信履歴、発信履歴、着信履歴に記録されている電話番号へ電話をかけることができます。

1 リストモードにする

ロータリーコマンダーを回す

2 履歴を表示する

D/Scrl ボタンを押す

ボタンを押すごとに次の順序で切り換わります。

電話帳→不在着信履歴→発信履歴→着信履歴→電話帳に戻る

3 電話をかけたい履歴データを選ぶ

ロータリーコマンダーを回す

次のデータを選ぶ：右に回す

前のデータを選ぶ：左に回す

4 選んだデータの詳細リストを表示する

ロータリーコマンダーを右に操作する

3 行リスト表示に戻すときは、ロータリーコマンダーを左に操作します。

5 選んだ履歴データに電話をかける

ロータリーコマンダーを押す

通話を終了するときは、ロータリーコマンダーを下に操作します。

メモ

- 詳細リスト表示中に D/Scrl ボタンを長く押すと、名前と電話番号をスクロール表示できます。
- 電話帳データに登録されている電話番号は、登録名が表示されます。
- ゲスト登録された携帯電話では、電話帳には切り換わりません。
- リスト表示は、30 秒間何も操作しないと自動的に電話の待ち受け画面に戻ります。

データを消去する

ユーザーメモリー消去

1 ユーザーメモリー消去にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」56 ページ）

2 消去するデータを選ぶ

ロータリーコマンダーを上下に操作する

電話帳、不在着信履歴、発信履歴、着信履歴、プリセットダイヤル、全て削除の中から選べます。

3 確認画面を表示する

ロータリーコマンダーを右に操作する

4 選んだデータを消去する

ロータリーコマンダーを押す

5 電話の待ち受け画面にする

B ボタンを押す

メモ

- 「全て削除」を選ぶと、電話帳、不在着信履歴、発信履歴、着信履歴、プリセットダイヤルの全データを消去します。
- ゲスト登録された携帯電話では、電話帳には切り換わりません。

電話番号を入力して電話をかける

ナンバー入力発信

1 ナンバー入力発信にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」56 ページ）

2 電話番号を入力する

■ 入力する数字を選ぶとき

次の数字を選ぶ：上に操作する
前の数字を選ぶ：下に操作する

■ 入力する位置を選ぶとき

右に移動する：右に操作する
左に移動する：左に操作する

3 入力した電話番号を決定し、確認画面を表示する

ロータリーコマンダーを押す

入力画面表示に戻すときは、ロータリーコマンダーを右に操作します

4 入力した電話番号に電話をかける

もう一度､ロータリーコマンダーを押す

通話を終了するときは、ロータリーコマンダーを下に操作します。

通話中のノイズやエコーを軽減する

エコーキャンセル

1 エコーキャンセル設定にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」56 ページ）

2 エコーキャンセル設定をONにする

ロータリーコマンダーを押す

3 電話の待ち受け画面にする

B ボタンを押す

着信音を ON／OFF する

着信 BEEP音設定

1 着信 BEEP 音設定にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」56 ページ）

2 着信BEEP音設定をONにする

ロータリーコマンダーを押す

3 電話の待ち受け画面にする

B ボタンを押す

着信拒否を設定する

着信拒否

1 着信拒否設定にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」56 ページ）

2 着信拒否設定を ON にする

ロータリーコマンダーを押す

3 電話の待ち受け画面にする

B ボタンを押す

自動着信を設定する

自動着信

1 自動着信設定にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」56 ページ）

2 自動着信設定を ON する

ロータリーコマンダーを押す

3 電話の待ち受け画面にする

B ボタンを押す

本システムのデバイス情報を確認する

デバイス情報

1 デバイス情報にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ファンクションメニューの切り換えかた」56 ページ）

本システムのデバイス名が表示されます。

2 デバイスアドレスを表示する

ロータリーコマンダーを左に操作する

ロータリーコマンダーを右に操作すると、デバイス名表示に戻ります。

3 電話の待ち受け画面にする

B ボタンを押す

DVD プレーヤーの組み合わせについて

本機での DVD プレーヤー（例：「XDV-P70」）の基本的な操作方法を説明しています。DVD プレーヤーの機能について、詳しくは組み合わせた DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

画面例

DVD のふだんの操作

ここだけの操作で、DVD プレーヤーでディスクを再生することができます。

1 ソースを DVD にする

SRC/Vol ボタンを押す

2 ディスクを切り換える（マルチDVDの場合）

ロータリーコマンダーを上下に操作する

3 チャプター／トラックを選ぶ（または早送り／早戻しをする）

■ チャプター／トラックを選ぶとき

次のチャプター／トラックを選ぶ：
　右に操作する
前のチャプター／トラックを選ぶ：
　左に操作する

■ 早送り／早戻しをするとき

早送り：右に操作し続ける
早戻し：左に操作し続ける

4 DVDプレーヤーの再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源を OFF にする

知っていると便利

●CD にタイトルが入力されている場合、D/Scrl ボタンを押すごとに、ディスクタイトル表示を ON ／ OFF できます。

ファンクションメニューの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例

使いたい機能を選ぶ

1 メインメニューを表示する

ロータリーコマンダーを押す

2 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンダーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンダーを押す

3 機能を切り換える

ロータリーコマンダーを回す

ロータリーコマンダーを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります。

DVD、ビデオ CD 再生時

再生範囲切換 ↔ ポーズ設定 ↔ 再生範囲切換に戻る

CD 再生時

再生範囲切換 ↔ ランダムプレイ設定 ↔ スキャンプレイ設定 ↔ ポーズ設定 ↔ITS プレイ設定 ↔ITS 登録 ↔ タイトル入力 ↔ 再生範囲切換に戻る

CD-ROM 再生時

再生範囲切換 ↔ ランダムプレイ設定 ↔ スキャンプレイ設定 ↔ ポーズ設定 ↔ 再生範囲切換に戻る

4 選んだ機能を操作する

再生範囲切換

ロータリーコマンダーを押すごとに、再生範囲が次の順序で切り換わります。

DVD 再生時

Disc repeat → Chapter repeat → Title repeat → Disc repeat に戻る

ビデオ CD、CD 再生時

Disc repeat → Track repeat → Disc repeat に戻る

CD-ROM 再生時

Disc repeat → Track repeat → Folder repeat → Disc repeat に戻る

ランダムプレイ設定

ロータリーコマンダーを押すごとに、ON ／ OFF します。

スキャンプレイ設定

ロータリーコマンダーを押すごとに、ON ／ OFF します。

ポーズ設定

ロータリーコマンダーを押すごとに、ON ／ OFF します。

タイトル入力

タイトル入力の操作方法は、CD と同じです。（➡「CD のタイトルを入力する」33 ページ）

ITS プレイ設定

ITS プレイ設定の操作方法は、マルチ CD と同じです。（➡「指定した曲だけ再生する」32 ページ）

ITS 登録

ITS 登録の操作方法は、マルチ CD と同じです。（➡「聞きたい曲を指定する」31 ページ）

次のページへ続く

ファンクションメニューの切り換えかた

<つづき>

知っていると便利

●ポーズの ON／OFF は、リモコンの DF ボタンでも操作できます。（➡「よく使う機能を直接操作する」101 ページ）

メモ

●ふだんの再生画面に戻るときは、B ボタンを押します。（「タイトル入力」や「ITS 登録」を選んでいるとき以外は、30 秒間何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります。）

●「CD TEXT」に対応しているDVDプレーヤーで「CD TEXT」を再生しているときは、「タイトル入力」には切り換わりません。（「CD TEXT」にあらかじめ収録されているタイトルは変更できません。）

●組み合わせたマルチ DVD プレーヤーによって、選べる機能は異なります。

本機のオーディオ調節機能について

本機には、4-way ネットワークモードがあります。

4-way ネットワークモードについて

●4-way ネットワークモードは、高音域から超低音域までの音域を 4 つに分けて、専用のアンプとスピーカーで再生する方式です。本機の 4-way ネットワークモードには、マルチアンプ・マルチスピーカーシステムに不可欠なネットワーク機能やタイムアライメント機能があり、各音域を細かくコントロールできます。

サブウーファーの接続について

●サブウーファーを一台だけ接続する場合は、ネットワークモードやタイムアライメントモードの設定を左右共通にしてください。

メモ

●車のバッテリー交換などで、本機に電源が供給されなくなった場合でも、オーディオ調節の内容は消去されません。オーディオ調節の内容を消去したいときは、オーディオ設定をリセット（➡「オーディオ設定をリセットする」95 ページ）してください。

オーディオ調節のポイント

次の順に設定や調節することで、きめ細かくお好みの音場を創り出すことができます。

手軽に心地よい音場を演出する

次の機能は、車種によって異なる音響特性に合わせた音場の演出を手軽に調節することができます。

●音場の中心で聞く（POSI）
●オートタイムアライメント & イコライジングを行う
●イコライザーカーブを選ぶ

きめ細かくお好みに合わせて調節する

次の順に設定や調整をすることで、きめ細かくお好みの音場を創り出すことができます。

●左右の音場バランスを調節する（BAL）
●タイムアライメントを調節する（TA2）
●ネットワークを調節する（NW1、NW2、NW3）
●イコライザーカーブを選ぶ
●イコライザーカーブを細かく補正する（EQ2）

オーディオ調節モードの切り換えかた

音を調節するときは、オーディオ調節モードを切り換えて操作します。

画面例

1 メインメニューにする

ロータリーコマンダーを押す

2 オーディオ調節モードにする

ロータリーコマンダーを回して「AUDIO」を選び、ロータリーコマンダーを押す

3 オーディオ調節モードを切り換える

ロータリーコマンダーを回す

ロータリーコマンダーを回すごとにオーディオ調節モードが次のように切り換わります。（切り換わり順は、選んだ動作モードによって異なります。詳しくは、右の各モード別の切り換わり順をご覧ください。）

4 オーディオ調節モードを解除する

B ボタンを押す

メモ

- ラジオの FM を聞いているときは、ソースレベルアジャスターには切り換わりません。
- ラジオを聞いているときは、サウンドレトリバー（S.Rtrv）には切り換わりません。

音量バランス調節
（➡「左右の音量バランスを調節する」73 ページ）
↕
リスニングポジション
（➡「リスニングポジションを選ぶ」74 ページ）
↕
ネットワークモード 1
（➡「ネットワークを調節する」76 ページ）
↕
ネットワークモード 2
（➡「ネットワークを調節する」76 ページ）
↕
ネットワークモード 3
（➡「ネットワークを調節する」76 ページ）
↕
タイムアライメント選択（TA1）
（➡「タイムアライメントを選ぶ」77 ページ）
↕
タイムアライメント調節（TA2）
（➡「タイムアライメントを調節する」78 ページ）
↕
イコライザーカーブ呼び出し（EQ1）
（➡「イコライザーカーブを呼び出す」79 ページ）
↕
イコライザー調節（EQ2）
（➡「イコライザーカーブを細かく調節する」80 ページ）
↕
オートイコライザー（A.EQ）
（➡「オートイコライザーを ON／OFF する」80 ページ）
↕
サウンドレトリバー（S.Rtrv）
（➡「音を補正して高音質化する」81 ページ）
↕
ラウドネス（LOUD）
（➡「小音量時の音にメリハリをつける」81 ページ）
↕
ソースレベルアジャスター
（➡「各ソースの音量の違いをそろえる」82 ページ）

左右チャンネルの調整モードを切り換える

本機は、左右チャンネル共通、または左右チャンネル独立にオーディオ調整を行うことができます。

左右共通／独立切り換えについて

左右チャンネル共通調整モード、または左右チャンネル独立調整モードを切り換えられるオーディオ調整機能は以下の通りです。

- ネットワークモード 1（NW1）
- ネットワークモード 2（NW2）
- ネットワークモード 3（NW3）
- イコライザー調節（EQ2）

1 オーディオ調整機能を切り換える

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

左右チャンネル共通調整、または左右チャンネル独立調整を切り換えたい機能を選びます。

2 左右チャンネル共通または左右チャンネル独立を切り換える

ロータリーコマンダーを長く押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、左右チャンネル共通調整と左右チャンネル独立調整が切り換わります。

L/R： 左右チャンネル共通調整を選ぶとき

L ch（R ch）： 左右チャンネル独立調整を選ぶとき

3 左右のチャンネルを切り換える（左右チャンネル独立の場合）

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、左チャンネルと右チャンネルが切り換わります。

L ch： 左チャンネルを調整するとき
R ch： 右チャンネルを調整するとき

左右の音量バランスを調節する

バランス

左右のスピーカーの音量バランスを調節することができます。

1 音量バランス調節モード（BAL）にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「オーディオ調節モードの切り換えかた」72 ページ）

2 左右の音量バランスを調節する

ロータリーコマンダーを左右に操作する

右を強める：右に操作する
左を強める：左に操作する
左右のバランスは L25 ～ R25 の範囲で調節できます。

リスニングポジションを選ぶ

リスニングポジション

乗車位置や人数に合わせて、リスニングポジション（聞く位置）を選ぶことで、音像の定位を適切に補正することができます。

1 リスニングポジションモード（POSI）にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「オーディオ調節モードの切り換えかた」72 ページ）

2 乗車位置を選ぶ

ロータリーコマンダーを操作する

ロータリーコマンダーを同じ方向に操作するごとに ON ／ OFF します。

F/R ：右に操作する
F/L ：左に操作する
Front：上に操作する

表 示	乗車位置
Right	右ハンドル車に運転者のみがいるとき
Left	左ハンドル車に運転者のみがいるとき
Front	同乗者が助手席にいるとき

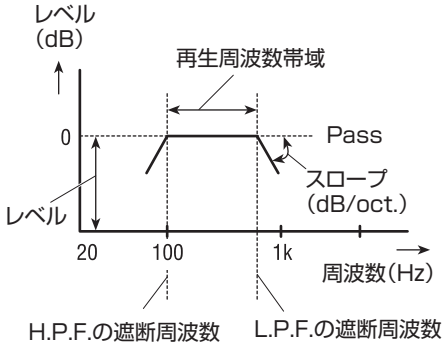
ネットワークを調節する前に

ネットワークについて

ネットワーク機能は、オーディオ信号を各音域ごとに分割し、それぞれの音域を各音域専用のスピーカーユニットで再生します。各スピーカーユニットの特性に合わせ、再生周波数帯域（ハイパスフィルターやローパスフィルター）やレベル、位相などを厳密に調節できます。

調節項目

ネットワーク機能は、以下の項目の調節が可能です。接続した各スピーカーユニットの再生周波数帯域や特性に合うよう調節してください。



再生周波数帯域

ハイパスフィルター（H.P.F.）やローパスフィルター（L.P.F.）の遮断周波数調節は、各スピーカーユニットの再生周波数帯域を設定することができます。

- H.P.F. は、設定した周波数以下の周波数（低音域）をカットし、高い周波数だけを通すフィルターです。
- L.P.F. は、設定した周波数以上の周波数（高音域）をカットし、低い周波数だけを通すフィルターです。

レベル

スピーカーユニット間の再生レベルを補正することができます。

スロープ

H.P.F. ／ L.P.F. のスロープ（フィルター特性の減衰量の傾き）調節は、スピーカーユニット間の音のつながりを調節することができます。

- スロープは、周波数が 1 オクターブ高く（または低く）なったときに、信号が何 dB 減衰するかを表す値です（単位；dB/oct.）。傾きを急にすると、信号が減衰する割合が大きくなります。

位相
各スピーカーユニットの入力信号に対する位相（正相／逆相）を切り換えることができます。スピーカー間の音のつながりが悪いときは、位相を切り換えてみてください。音のつながりが良くなる場合があります。

ネットワーク調節のポイント

遮断周波数調節のポイント
サブウーファーやローレンジスピーカーを車両後部に設置した場合、“SW-LPF”や“Low-LPF”の遮断周波数を高く設定すると、低音が分離して後ろから聞こえてくるようになります。“SW-LPF”や“Low-LPF”の遮断周波数は、100 Hz 以下に設定することをおすすめします。

一般的に、ミッドレンジスピーカーやハイレンジスピーカーは、低音域再生用のローレンジスピーカーやサブウーファーより、耐入力が低く設定されています。

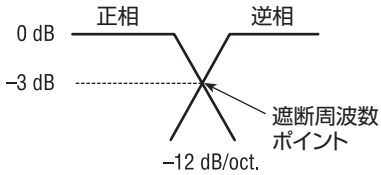
“Mid-HPF”や“High-HPF”の遮断周波数を必要以上に低く設定すると、強い低音信号の入力によってスピーカーが破損するおそれがありますので、ご注意ください。

レベル調節のポイント
中音域には、多くの楽器の基本周波数が含まれています。最初に中音域のレベル調節を行い、高音域、低音域の順でレベルを調節することをおすすめします。

スロープ調節のポイント
スロープの絶対値を小さく（傾きを緩やかに）すると、隣り合うスピーカーユニット間の干渉によって周波数特性が影響を受けやすくなります。スロープの絶対値を大きく（傾きを急に）すると、スピーカーユニット間の音のつながりが悪くなり、音が分離して聞こえるようになります。

スロープを 0dB/oct.（Pass）に設定すると、オーディオ信号はフィルター回路を回避するため、フィルター回路は効果がなくなります。

位相調節のポイント
両側のフィルター共に遮断周波数ポイントのスロープ設定値を－ 12dB/oct. に設定した場合、フィルターの遮断周波数において位相が 180 度反転します。この場合、位相を反転すると、音のつながりが良くなります。



スピーカーユニットにミュートをかける
各スピーカーユニット（フィルター）をミュートすることができます。ミュートしたスピーカーユニット（フィルター）からは、音が出なくなります。

● ミュートしているときにレベルを調節すると、ミュートが解除されます。

1 ネットワークモード1（NW1）にする
ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「オーディオ調節モードの切り換えかた」72 ページ）

2 ミュートするスピーカーユニット（フィルター）を選ぶ
ロータリーコマンダーを左右に操作する

ロータリーコマンダーを左右に操作するごとに次のように切り換わります。

SW-HPF（サブウーファーの HPF）
↕
SW-LPF（サブウーファーの LPF）
↕
Low-HPF（ローレンジスピーカーの HPF）
↕
Low-LPF（ローレンジスピーカーの LPF）
↕
Mid-HPF（ミッドレンジスピーカーの HPF）
↕
Mid-LPF（ミッドレンジスピーカーの LPF）
↕
High-HPF（ハイレンジスピーカーの HPF）
↕
High-LPF（ハイレンジスピーカーの LPF）

3 選んだスピーカーユニット（フィルター）をミュートする
ロータリーコマンダーを下に長く押す

ロータリーコマンダーを上に押すと、ミュートが解除されます。

ネットワークを調節する

各スピーカーユニットの再生周波数帯域やレベル、位相などを調節することで、各スピーカーユニットの特性に合わせた厳密な設定をすることができます。

1 ネットワークモード1（NW1）にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「オーディオ調節モードの切り換えかた」72 ページ）

2 調整するスピーカーユニット（フィルター）を選ぶ

ロータリーコマンダーを左右に操作する

ロータリーコマンダーを左右に操作するごとに次のように切り換わります。

SW-HPF（サブウーファーの HPF）
↕
SW-LPF（サブウーファーの LPF）
↕
Low-HPF（ローレンジスピーカーの HPF）
↕
Low-LPF（ローレンジスピーカーの LPF）
↕
Mid-HPF（ミッドレンジスピーカーの HPF）
↕
Mid-LPF（ミッドレンジスピーカーの LPF）
↕
High-HPF（ハイレンジスピーカーの HPF）
↕
High-LPF（ハイレンジスピーカーの LPF）

3 ネットワークモード2（NW2）にする

ロータリーコマンダーを右に回して選ぶ

4 遮断周波数を調節する

ロータリーコマンダーを左右に操作する

ロータリーコマンダーを左右に操作するごとに次のように切り換わります。

High-LPF を選んだとき

5k↔6.3k↔8k↔10k↔12.5k↔16k↔20k

High-HPF を選んだとき

800Hz↔1k↔1.25k↔1.6k↔2k↔2.5k↔3.15k↔4k↔5k↔6.3k↔8k↔10k↔12.5k↔16k

Mid-LPF、Low-LPF、または SW-LPF を選んだとき

25Hz↔31.5Hz↔40Hz↔50Hz↔63Hz↔80Hz↔100Hz↔125Hz↔160Hz↔200Hz↔250Hz↔315Hz↔400Hz↔500Hz↔630Hz↔800Hz↔1k↔1.25k↔1.6k↔2k↔2.5k↔3.15k↔4k↔5k↔6.3k↔8k↔10k↔12.5k↔16k↔20k

Mid-HPF、Low-HPF、または SW-HPF を選んだとき

20Hz↔25Hz↔31.5Hz↔40Hz↔50Hz↔63Hz↔80Hz↔100Hz↔125Hz↔160Hz↔200Hz↔250Hz↔315Hz↔400Hz↔500Hz↔630Hz↔800Hz↔1k↔1.25k↔1.6k↔2k↔2.5k↔3.15k↔4k↔5k↔6.3k↔8k↔10k↔12.5k↔16k

5 レベルを調節する

ロータリーコマンダーを上下に操作する

±0 dB～－24 dBの範囲で調節できます。Low-LPF を選んでいる場合は、＋6 dB～－24 dB の範囲で調節できます。

6 ネットワークモード3(NW3)にする

ロータリーコマンダーを右に回して選ぶ

7 スロープを調節する

ロータリーコマンダーを左右に操作する

ロータリーコマンダーを左右に操作するごとに次のように切り換わります。

High-HPF を選んだとき

6dB/oct.↔12dB/oct.↔18dB/oct.↔24dB/oct.↔30dB/oct.↔36dB/oct.

High-LPF、Mid-LPF、Mid-HPF、Low-LPF、Low-HPF、SW-LPF、または SW-HPF を選んだとき

Pass↔6dB/oct.↔12dB/oct.↔18dB/oct.↔24dB/oct.↔30dB/oct.↔36dB/oct.

8 位相を切り換える

ロータリーコマンダーを上下に操作する

NOR（正相）：上に操作する
REV（逆相）：下に操作する

9 ネットワーク調節モードを解除する

B ボタンを押す

タイムアライメントを選ぶ

タイムアライメント

お好みのタイムアライメントを選ぶことができます。

タイムアライメントについて

タイムアライメントは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節する機能です。

1 タイムアライメントモード1（TA1）にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「オーディオ調節モードの切り換えかた」72 ページ）

2 タイムアライメントを選ぶ

ロータリーコマンダーを左右に操作する

ロータリーコマンダーを左右に操作するごとに次のように切り換わります。

Init↔Custom↔Auto↔OFF

タイムアライメントの種類	内　容
Init（Initial）	初期設定状態（ご購入直後の状態）
Custom	お好みに合わせて調節したタイムアライメント
Auto（Auto TA）	Auto TA & EQ で調節したタイムアライメント **（➡「オートタイムアライメント&イコライジングを行う」84 ページ）**
OFF	タイムアライメントを OFF にします。

メモ

- Auto TA & EQ（➡「オートタイムアライメント&イコライジングを行う」84 ページ）を行っていないときは、“Auto” を選ぶことはできません。（“Auto TA を設定してください” と表示されます。）

タイムアライメントを調節する

各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節することができます。リスニングポジション（➡「リスニングポジションを選ぶ」74 ページ）を設定することで自動的に設定されますが、タイムアライメントではさらに厳密な調節をすることができます。

1 タイムアライメントモード1（TA1）にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「オーディオ調節モードの切り換えかた」72 ページ）

2 調節の元にするタイムアライメントを選ぶ

ロータリーコマンダーを左右に操作して選ぶ

（➡「タイムアライメントを選ぶ」77 ページ）

3 タイムアライメントモード2（TA2）にする

ロータリーコマンダーを右に回して選ぶ

確認

リスニングポジションモードで “F/R” か “F/L” を選んでいないと、タイムアライメントの調節をすることはできません。（“ポジションを FL か FR にしてください” と表示されます。）

4 各スピーカーの距離を調節する

■ 調節するスピーカーを選ぶ

ロータリーコマンダーを左右に操作するごとに次のように切り換わります。

High L（ハイレンジスピーカー左）
↕
High R（ハイレンジスピーカー右）
↕
Mid L（ミッドレンジスピーカー左）
↕
Mid R（ミッドレンジスピーカー右）
↕
Low L（ローレンジスピーカー左）
↕
Low R（ローレンジスピーカー右）
↕
SW L（サブウーファー左）
↕
SW R（サブウーファー右）

■ 距離を調節する

ロータリーコマンダーを上下に操作する

上：距離を遠くするとき
下：距離を近くするとき
0.00 cm ～ 394.75 cm の範囲で調節できます。

5 タイムアライメントモード2を解除する

B ボタンを押す

メモ

- タイムアライメントモード 1（TA1）で OFF を選んでいるときは、タイムアライメントモード 2（TA2）には切り換わりません。
- タイムアライメントを調節すると、“Custom” に登録されます。

イコライザーカーブを呼び出す

登録したイコライザーカーブを選ぶことができます。

1 イコライザーカーブ呼び出しモード（EQ1）を選ぶ

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「オーディオ調節モードの切り換えかた」72 ページ）

2 呼び出したいイコライザーカーブを選ぶ

ロータリーコマンダーを左右に操作して選ぶ

ロータリーコマンダーを左右に操作するごとに次のように切り換わります。

MEMORY1
↕
MEMORY2
↕
MEMORY3
↕
MEMORY4
↕
MEMORY5
↕
FLAT

メモ

●EQ ボタンを押して、イコライザーカーブを呼び出すこともできます。

イコライザーカーブをコピー／登録する

お好みに合わせて調節したイコライザーカーブを、登録することができます。既に登録されているイコライザーカーブをコピーすることもできます。

1 コピーしたいイコライザーカーブにする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「イコライザーカーブを呼び出す」）

2 コピーしたいイコライザーカーブを決定する

ロータリーコマンダーを長く押す

3 登録先を選ぶ

ロータリーコマンダーを左右に操作して選ぶ

4 登録先にイコライザーカーブを登録する

ロータリーコマンダーを長く押す

イコライザーカーブを細かく調節する

お好みに合わせて、イコライザーカーブの周波数レベルを細かく調節することができます。

1 イコライザー調節モード(EQ2)にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

(➡「オーディオ調節モードの切り換えかた」72 ページ)

2 周波数を調節する

ロータリーコマンダーを左右に操作して選ぶ

ロータリーコマンダーを左右に操作するごとに次のように切り換わります。

20Hz↔25Hz↔31.5Hz↔40Hz↔50Hz↔63Hz↔80Hz↔100Hz↔125Hz↔160Hz↔200Hz↔250Hz↔315Hz↔400Hz↔500Hz↔630Hz↔800Hz↔1k↔1.25k↔1.6k↔2k↔2.5k↔3.15k↔4k↔5k↔6.3k↔8k↔10k↔12.5k↔16k↔20k

3 レベルを調節する

ロータリーコマンダーを上下に操作して選ぶ

ロータリーコマンダーを上下に操作するごとに +12 (dB) ～− 12 (dB) の範囲で調節できます。

4 調節したイコライザーカーブが自動的に登録されます

オートイコライザーをON／OFFする

オートイコライザー

Auto TA & EQ (➡「オートタイムアライメント&イコライジングを行う」84 ページ) で作成したオートイコライザーカーブを ON／OFF することができます。

1 オートイコライザーモード(A.EQ) にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

(➡「オーディオ調節モードの切り換えかた」72 ページ)

2 オートイコライザーをON／OFFする

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、ON／OFF します。

メモ

- Auto TA & EQ (➡「オートタイムアライメント&イコライジングを行う」84 ページ) を行っていないときは、オートイコライザーモードの操作はできません。("Auto EQ を設定してください" と表示されます。)

音を補正して高音質化する

サウンドレトリバー

音の密度感や抑揚感を向上させて再生できます。

サウンドレトリバーとは

●圧縮音声は圧縮処理される際に、人が感じ取りにくい部分の音声が削除されてしまいます。サウンドレトリバー機能では、削除された部分の音声を補うことによって、音の密度感や抑揚感を向上させて再生します。

1 サウンドレトリバーモード（S.Rtrv）にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「オーディオ調節モードの切り換えかた」72 ページ）

2 S.Rtrv を切り換える

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、次の順序で設定が切り換わります。

OFF
↓
MODE1
↓
MODE2

メモ

●低圧縮率の音声には、MODE1 が適しています。
●高圧縮率の音声には、MODE2 が適しています。
●オーディオデータが収録された CD、DVD、Bluetooth オーディオ、iPod、USB、および AUX を再生しているときに、使用できます。

小音量時の音にメリハリをつける

ラウドネス

小さな音量で聞いているときの、低・高音の不足感を補正して、メリハリのある音にすることができます。

1 ラウドネスモード（LOUD）にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「オーディオ調節モードの切り換えかた」72 ページ）

2 ラウドネスを ON にする

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、ON ／ OFF します。

各ソースの音量の違いをそろえる

SLA

ソースを切り換えたとき音量に違いが出ないように、FM の音量を基準にして各ソースの音量をそろえることができます。

1 FMを受信し、FMの音量を確かめる

SRC/Vol ボタンを押す

（➡「ここだけで」22 ページ）

2 調節したいソースに切り換える

SRC/Vol ボタンを押す

（➡「ここだけで」18 ページ）

3 SLA モード（SLA）にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「オーディオ調節モードの切り換えかた」72 ページ）

4 レベルを調節する

ロータリーコマンダーを上下に操作する

上：レベルを大きくするとき

下：レベルを小さくするとき

－ 4 ～＋ 4 の範囲で調節できます。

メモ

- SLA とは「Source Level Adjuster（ソースレベルアジャスター）」の略です。
- FM の音量を基準に他のソースとの音量差を調節するため、FM を聞いているときは、SLA モード（SLA）に切り換えることはできません。
- AM、DVD、CD、iPod、External（エクスターナルユニット）、AUX（外部機器）、AV のそれぞれの音量差を調節することができます。なお、内蔵 CD とマルチ CD、External1 と External2、および AM と交通情報（➡「交通情報を受信する」101 ページ）は同じ設定になります。

オートタイムアライメント＆イコライジングを行う前に

警告

運転中に Auto TA & EQ を行わない

自動車が走行中に Auto TA & EQ を行わないでください。Auto TA & EQ 機能は車室内の音響特性を測定するために、スピーカーから大音量の計測音を出すことがあります。この場合、運転の妨げになり事故の原因となることがあります。

高域再生用のスピーカーはハイレンジ出力端子以外には接続しない

オートタイムアライメント＆イコライジング（Auto TA & EQ）機能は、車室内の音響特性を測定するために、スピーカーから大音量の測定音を出力します。高域再生用のスピーカー（トゥイーターやスーパートゥイーター）をハイレンジ出力端子（HIGH RANGE OUTPUT）以外のスピーカー端子に接続すると、低い周波数を含んだ測定音によりスピーカーを破損することがあります。

高域再生用のスピーカーは、必ず HIGH 信号用スピーカー出力端子に接続してください。

トゥイーターとスーパートゥイーターを接続した場合のご注意

- 必ずスーパートゥイーターに付属のクロスオーバーネットワークをご使用ください。
- オートタイムアライメント＆イコライジング（Auto TA & EQ）が正しく設定されないことがあります。このようなときは、必要に応じて手動で調整してください。

スピーカーの破損を防止するために

次の状態で Auto TA & EQ を行うと、スピーカーを破損するおそれがあります。Auto TA & EQ を行う前に、よく確認してください。

- スピーカーの接続を誤っている場合（例：サブウーファー出力にトゥイーターを接続している場合）
- スピーカーの耐入力を超えるパワーアンプを接続している場合
- トゥイーターを組み合わせて使用する場合は、組み合わせたトゥイーターの再生可能周波数帯域を確認してください。カットオフ周波数を設定するときは、トゥイーターの再生可能周波数帯域の下限よりも高い値に設定してください。
- Auto TA では、10 kHz 以上の信号を用いて計測を行います。このため、10 kHz の音域が再生できないトゥイーターでは、計測音が出力されないだけでなく、スピーカーを破損するおそれがあります。Auto TA & EQ を行う場合は、カットオフ周波数の設定に加えて、再生周波数帯の下限が 10 kHz 以下のトゥイーターを使用してください。

オートタイムアライメント & イコライジング（Auto TA & EQ）機能とは

車内空間には、形状、材質、スピーカーの取付位置やリスニングポジションなど、さまざまな制約があります。このため、ホームオーディオに比べて、音響特性が大きく乱れています。乱れた音響特性を補正するために、一般的にはイコライザーなどを使用します。しかし、車内の音響特性を最適にするためには、音響測定器などの道具や、音響調整の熟練した技術が必要です。この、複雑で困難な音響調整を、専用のマイクだけで自動的に行う機能が、本機の「オートタイムアライメント & イコライジング（Auto TA & EQ）」機能です。
本機の Auto TA & EQ 機能は、車室内を最良の音響空間にするために必要な調整を、全て自動で行います。そして、車室内の音響特性を、乱れが少なく、滑らかな状態に最適化します（Auto EQ）。また、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を測定し、音声の到達時間を補正します（Auto TA）。
こうして、それぞれの車にとって最良の音響空間を手軽に実現します。

Auto TA & EQ を行う前に必ずしておくこと

Auto TA & EQ を効果的に行うために、準備していただくことがあります。下記を参照して、正しく準備してください。

- 本機の出力（ハイレンジ出力、ミッドレンジ出力、ローレンジ出力、サブウーファー出力）の再生可能帯域順にスピーカーを接続してください。

① なるべく静かな場所に車を停車させる。
② 車のエンジン、エアコン、ヒーターをオフにする。（エアコンやヒーターのファンの騒音によって、Auto TA & EQ が実行できないことがあります。）
③ 携帯電話や車載電話の電源をオフにする。または車外に持ち出す。
④ 付属の音響特性測定用マイクを用意する。（それ以外のマイクでは、音響特性が正しく測定されません。）
⑤ SP 接続設定モード（➡「接続したスピーカーを設定する」87 ページ）で ON にしたスピーカーを接続する。
（接続していないと、Auto TA & EQ が実行できません。また、使用しないスピーカーは OFF にしてください。）
⑥ 接続したスピーカーのミュートを解除する。（ミュートしていると、Auto TA & EQ が実行できません。）
⑦ 入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルを推奨位置に合わせる。
⑧ ローパスフィルター付きのパワーアンプを接続している場合は、ローパスフィルターをオフにする。
⑨ ローパスフィルター付きのパワードサブウーファーを接続している場合は、ローパスフィルターの遮断周波数を最も高い値に設定する。
⑩ AUX1/ マイク入力端子から、AUX ケーブル（2.5mm ステレオ超ミニプラグ）や音響特性測定用マイクを抜く。（AUX1/ マイク入力端子に何か接続されている状態では、Auto TA & EQ 設定モードに切り換わりません。）

次のページへ続く

オートタイムアライメント＆イコライジングを行う前に <つづき>

Auto TA & EQ

Auto TA & EQ による調節で変更される設定

Auto TA & EQ を行うと、設定が次のように変更されます。

- 左右の音量バランス設定（バランス）：
  初期設定に戻る
- イコライザーカーブ：
  フラットに設定される
- ハイパスフィルター：
  車内の音響特性に合わせて調節される

Auto TA & EQ の調節内容について

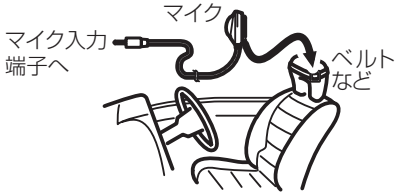
- 再度 Auto TA & EQ を行うと、前回の調整内容は消去されます。
- Auto TA & EQ 測定時に算出されたタイムアライメントの値は、コンピューターが算出した正確な遅延時間を基に測定されたものです。次のような場合に、実際の距離と異なることがありますが、そのままご使用ください。
- 車室内の反射音が直接音より強く、かつ遅延を生じている。
- パワードサブウーファーや外部アンプのローパスフィルターの影響により、低音に遅延が生じている。

オートタイムアライメント＆イコライジングを行う

オートタイムアライメント&イコライジングを行う前に、「オートタイムアライメント＆イコライジングを行う前に」（➡ 82 ページ）をよく読んで、オートタイムアライメント＆イコライジングの準備を行ってください。

1 音響特性測定用マイクをセットする

ベルトなどを使用して、運転席のヘッドレストの中央に付属の音響特性測定用マイクを前向きに固定する



メモ

- マイクの取付位置が悪いと、測定音が大きくなったり測定時間がかかったりして、車のバッテリーが上がるおそれがあります。マイクは必ず指定の位置に取り付けてください。
- 音響特性測定用マイクを取り付ける位置により、Auto TA & EQ の調整内容が変化します。お好みにより、助手席にセットすることもできます。

2 本機の電源を切る

SRC/Vol ボタンを長く押す

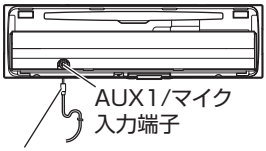
3 Auto TA & EQ設定モードにする

EQ ボタンを長く押す

フロントパネルが自動的に開き、ポジション選択画面が表示されます。

4 マイクを本機に接続する

付属の音響特性測定用マイクを AUX1/ マイク入力端子に接続する



メモ

- Auto TA & EQ の測定時間は、周囲の騒音状態、車両形状、スピーカーの数などによって異なります。
- AUX1/ マイク入力端子にマイクがしっかりと挿入されていない状態で Auto TA & EQ を行うと、エラーが生じます。マイクを確実に挿入してから、Auto TA & EQ を行ってください。

5 ポジションを選択する

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、次の様に切り換わります。

フロントレフト ↔ フロントライト

6 NW モード選択画面にする

ロータリーコマンダーを右に回す

7 NW モードを選択する

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、次の様に切り換わります。

Auto N/W（オート）↔Custom N/W（カスタム）

既に設定されたネットワーク調整値をもとにオートタイムアライメント & イコライジングを行う場合は、Custom N/W を選択してください。自動的に設定する場合は Auto N/W を選択してください。

メモ

- ネットワークモード（NW1 ～ NW3）が正しく設定されていないと、Auto TA & EQ を行っても音場が正しく設定されないことがあります。

8 Auto TA & EQ測定前画面にする

ロータリーコマンダーを右に回す

9 Auto TA & EQ を開始する

ロータリーコマンダーを押す

メモ

- もう一度ロータリーコマンダーを押すと、途中解除します。

10 車の外に出る

10 秒のカウントダウンが始まるので、10 秒以内に車外に出て、ドアを閉める

計測音（ノイズ）が各スピーカーから出力され、Auto TA & EQ が始まります。

11 Auto TA & EQが自動的に終了する

Auto TA & EQ が終わったら、セットした音響特性測定用マイクを取り外し、B ボタンを押して電源を切り、▲/Open ボタンを長く押してフロントパネルを閉めてください。

メモ

- Auto TA & EQ を途中でやめたくなったときは、B ボタンを押すと、強制的に解除することができます。
- マイクはグローブボックスなどに入れて、大切に保管してください。直射日光の当たる場所に長時間放置すると、高温による変形、変色、故障の原因になるおそれがあります。

初期設定メニューの切り換えかた

「時計調整」「外部機器設定」などの機能を使うときは、初期設定メニューで操作します。
初期設定メニューは、電源を OFF にした状態で操作します。

画面例

使いたい機能を選ぶ

1 電源を OFF にする

SRC/Vol ボタンを長く押す

2 初期設定メニューにする

ロータリーコマンダーを長く押す

3 ロータリーコマンダーを回す

ロータリーコマンダーを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります。

SP 接続設定
（➡「接続したスピーカーを設定する」87 ページ）
↕
リモコン受光設定
（➡「リモコンの受光を設定する」88 ページ）
↕
時計調整
（➡「時計を合わせる」88 ページ）
↕
デタッチワーニング設定
（➡「フロントパネルの外し忘れを警告する」89 ページ）
↕
フェイスオートオープン設定
（➡「フロントパネルを外しやすくする」89 ページ）
↕
外部機器設定 1
（➡「外部機器を使う」90 ページ）
↕
外部機器設定 2
（➡「外部機器を使う」90 ページ）
↕
ディマー設定
（➡「夜間のディスプレイの明るさを切り換える」92 ページ）
↕
輝度調整
（➡「ディスプレイの明るさを調節する」92 ページ）
↕
イルミ色調整 1
（➡「イルミネーションの色を変更する」93 ページ）
↕
イルミ色調整 2
（➡「イルミネーションの色を調節する」93 ページ）
↕
イルミ連動設定
（➡「イルミネーションを車の操作と連動させる」94 ページ）

↕
デジタル ATT 設定
（➡「音の歪みを補正する」94 ページ）
↕
オーディオリセット
（➡「オーディオ設定をリセットする」94 ページ）
↕
ミュート設定
（➡「ミュート／アッテネートを切り換える」95 ページ）
↕
ドアミュート設定 1
（➡「ドアミュートの極性を設定する」96 ページ）
↕
ドアミュート設定 2
（➡「ドアミュートを設定する」96 ページ）
↕
画面反転設定
（➡「画面反転機能を ON ／ OFF する」97 ページ）
↕
連続スクロール設定
（➡「スクロールの設定を切り換える」97 ページ）
↕
BT AUDIO 設定
（➡「Bluetooth Audio ソースを ON にする」98 ページ）
↕
パスコード編集
（➡「Bluetooth のパスコードを変更する」98 ページ）
↕
BT バージョン情報
（➡「Bluetooth のバージョンを表示する」99 ページ）

メモ

- 初期設定メニューを解除するときは、B ボタンを押します。（初期設定メニューを解除すると、電源が OFF になります。）
- BT AUDIO、パスコード編集、BT バージョン情報は別売の Bluetooth アダプター（例：「CD-BTB10」）を接続しているときだけ選択できます。

接続したスピーカーを設定する

SP 接続設定

スピーカーをご使用になる際に、スピーカーの接続設定を行ってください。

スピーカー接続設定について

- ミッドレンジスピーカーは、常時オンになっています。設定の変更はできません。
- Auto TA & EQ を行った後でスピーカー設定を変更した場合は、再度 Auto TA & EQ を行ってください。

1 SP 接続設定モードにする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「初期設定メニューの切り換えかた」86 ページ）

2 スピーカーを選択する

ロータリーコマンダーを左右に操作する

ロータリーコマンダーを左右に操作するごとに、次のように切り換わります。

Subwoofer↔Low range↔High range

3 スピーカーの設定をする

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、ON ／ OFF します。

4 初期設定メニューを解除する

B ボタンを押す

リモコンの受光を設定する

リモコン受光設定

リモコンの受光を設定します。
OFF に設定すると、全てのリモコン操作ができなくなります。本機と、別売のナビゲーションユニットを組み合わせているとき、ナビゲーションに付属のリモコンによる誤動作を防ぎます。

1 リモコン受光設定モードにする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「初期設定メニューの切り換えかた」86 ページ）

2 リモコンの受光を設定する

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、ON ／ OFF します。

3 初期設定メニューを解除する

B ボタンを押す

時計を合わせる

時計調整

本機のディスプレイに表示する時計の調整ができます。

1 時計調整にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「初期設定メニューの切り換えかた」86 ページ）

2 時計を調整する

■ 時または分を選ぶとき

ロータリーコマンダーを左右に操作する

時を選ぶ：左に操作する
分を選ぶ：右に操作する

■ 時刻を合わせるとき

ロータリーコマンダーを上下に操作する

時刻を進める：上に操作する
時刻を戻す：　下に操作する
分を調節すると、0 秒からカウントが始まります。

■ 時刻を時報に合わせるとき

ロータリーコマンダーを押す

分が“00”になります。
例） 10：00 ～ 10：29 → 10：00
　　 10：30 ～ 10：59 → 11：00

3 初期設定メニューを解除する

B ボタンを押す

フロントパネルの外し忘れを警告する

デタッチワーニング

デタッチワーニングは、車を離れるときに、フロントパネルの外し忘れを警告ブザーで報せる機能です。
フロントパネルを取り外すには（➡「フロントパネルの取り外しかた／取り付けかた」15 ページ）

デタッチワーニングについて

イグニッションスイッチを OFF にしたときに、フロントパネルを外し忘れていると、約 4 秒後に警告ブザーが鳴り、フロントパネルの外し忘れを知らせます。

1 デタッチワーニング設定モードにする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「初期設定メニューの切り換えかた」86 ページ）

2 デタッチワーニングの設定をONにする

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、ON ／ OFF します。

3 初期設定メニューを解除する

B ボタンを押す

フロントパネルを外しやすくする

フェイスオートオープン

フェイスオートオープンは、車を離れるときに、フロントパネルを外しやすくする機能です。
フロントパネルを取り外すには（➡「フロントパネルの取り外しかた／取り付けかた」15 ページ）

フェイスオートオープンについて

フロントパネルを外しやすくするため、イグニッションスイッチを OFF にした約 4 秒後に、フロントパネルが自動的に開きます。

1 フェイスオートオープン設定モードにする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「初期設定メニューの切り換えかた」86 ページ）

2 フェイスオートオープンの設定をONにする

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、ON ／ OFF します。

3 初期設定メニューを解除する

B ボタンを押す

外部機器を使う

市販のポータブル機器や VTR などを 2 台まで接続することができます。また、それぞれの機器の音声を外部機器（AUX1、AUX2）ソースとして車両のスピーカーから出力させることができます。
外部機器を接続した場合は、外部機器（AUX1、AUX2）ソースの設定を ON にしてください。

外部機器との接続について

外部機器の接続には、次の 3 通りがあります。

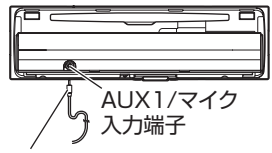
① 付属の AUX ケーブル（2.5 mm ステレオ超ミニプラグ）を使用する場合（AUX1）
② 別売の RCA/IP-BUS インターコネクターを使用する場合（AUX2）
③ IP-BUS を使用する場合（AUX2）
（パイオニア製ナビゲーションユニットなど、IP-BUS 出力を持つパイオニア製品を使用する場合）

メモ

●AUX2 は、②と③のどちらか一方の接続でのみ使用できます。（両方の接続を同時にすることはできません。）

① 付属の AUX ケーブル（2.5 mm ステレオ超ミニプラグ）を使用する場合

▲/Open ボタンを長く押して、フロントパネルを開けます。フロントパネル底面の AUX1 ／マイク入力端子に付属の AUX ケーブル（2.5 mm ステレオ超ミニプラグ）を差し込み、接続します。この場合、接続した外部機器は、AUX1 ソースになります。



② 別売の RCA/IP-BUS インターコネクターを使用する場合

接続する外部機器に RCA 出力がある場合、別売の RCA/IP-BUS インターコネクター「CD-RB10」または「CD-RB20」を使用して、本機の IP-BUS 入力端子に接続します。接続した外部機器は、AUX2 ソースになります。詳しくは、RCA/IP-BUS インターコネクターの説明書をご覧ください。

③ IP-BUS を使用する（パイオニア製ナビゲーションユニットなどを接続する）場合

別売の IP-BUS ケーブル（「CD-IP600」など）を使用して、本機の IP-BUS 入力に接続します。接続したナビゲーションユニットは、AUX2 ソースになり、音声のみ出力できます。

1 外部機器設定 1/2 モードにする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「初期設定メニューの切り換えかた」86 ページ）

2 外部機器の設定を ON にする

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、ON ／ OFF します。

3 ソースをAUX1またはAUX2にする

SRC/Vol ボタンを押す

（➡「ここだけで」18 ページ）

ソースを AUX1 または AUX2 に切り換えると、接続した外部機器の音声が出力されます。

メモ

- 外部機器の名称を変更することもできます。外部機器の名称を変更するには（➡「外部機器の名称を変更する」）

外部機器の名称を入力する

本機に外部機器（AUX1、AUX2）を接続したときに、その機器の名称を本機に入力して、ディスプレイに表示させることができます。
たとえば、VTR を外部機器として本機に接続した場合は、初期状態で表示される“AUX1”または“AUX2”を“VTR”に変更することができます。

1 ソースを外部機器（AUX1、AUX2）にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「ここだけで」21 ページ）

2 メインメニューにする

ロータリーコマンダーを押す

「FUNCTION」、「AUDIO」、「DISPLAY」が表示されます。

3 外部機器の名称入力モードにする

ロータリーコマンダーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンダーを押す

4 外部機器の名称を入力し、登録する

CD のタイトル入力の手順 3 以降を参照し、同様の操作で外部機器の名称を登録してください。（➡「CD のタイトルを入力する」33 ページ）

メモ

- 外部機器の名称は、8 文字まで入力できます。

夜間のディスプレイの明るさを切り換える

ディマー

夜間、周囲が暗くなったときにディスプレイがまぶしくならないように、車のライトを ON にするとディマーが働き、ディスプレイが暗くなるように設定できます。

1 ディマー設定モードにする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「初期設定メニューの切り換えかた」86 ページ）

2 ディマーの設定を ON にする

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、ON ／ OFF します。

3 初期設定メニューを解除する

B ボタンを押す

メモ

- 車のライトを ON にしてディマーが働いているときでも、輝度調整モード（➡「ディスプレイの明るさを調節する」）でディスプレイの明るさを“0”に調整しているときは、ディスプレイの明るさを変えることはできません。

ディスプレイの明るさを調節する

輝度調整

ディスプレイの明るさを調節できます。

1 輝度調整モードにする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「初期設定メニューの切り換えかた」86 ページ）

2 明るさを調節する

ロータリーコマンダーを左右に操作する

右：明るくしたいとき
左：暗くしたいとき
0 ～ 15 の範囲で調節できます。

3 初期設定メニューを解除する

B ボタンを押す

メモ

- ディマー設定（➡「夜間のディスプレイの明るさを切り換える」）が ON のときは、輝度調整の範囲は、0 ～ 10 になります。

イルミネーションの色を変更する

イルミ色調整 1

イルミネーションの色と明るさを設定できます。

1 イルミ色調整 1 モードにする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「初期設定メニューの切り換えかた」86 ページ）

2 イルミネーションの色を選択する

ロータリーコマンダーを左右に操作する

ロータリーコマンダーを左右に操作するごとに次のように切り換わります。

White↔Red↔Orange↔Blue↔Green↔Custom

メモ

- カスタムを選択した場合、三原色である RGB の中から調整することができます。詳細は「イルミネーションの色を調節する」を参照してください。

3 イルミネーションの明るさを調節する

ロータリーコマンダーを上下に操作する

上：レベルを大きくする
下：レベルを小さくする
レベルは +1 ～ − 1 の範囲で調節できます。

4 初期設定メニューを解除する

B ボタンを押す

イルミネーションの色を調節する

イルミ色調整 2

RGB（赤、緑、青）のレベルを調節して、イルミネーション色を変更できます。

メモ

- この機能は「イルミネーションの色を変更する」で Custom を選択した場合だけ、ご使用いただけます。

1 イルミ色調節 2 モードにする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「初期設定メニューの切り換えかた」86 ページ）

2 調節する対象の色を選択する

ロータリーコマンダーを左右に操作する

ロータリーコマンダーを左右に操作するごとに次のように切り換わります。

R↔G↔B

3 イルミネーションの色のレベルを調節する

ロータリーコマンダーを上下に操作する

上：レベルを大きくする
下：レベルを小さくする
レベルは 4 ～ 0 の範囲で調節できます。

4 初期設定メニューを解除する

B ボタンを押す

イルミネーションを車の操作と連動させる

イルミ連動

本機のボタンのイルミネーションを、車のライト、またはイグニッションキーに連動させることができます。

1 イルミ連動設定モードにする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「初期設定メニューの切り換えかた」86 ページ）

2 イルミネーションを連動させる

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、ON ／ OFF します。

ON：ボタンのイルミネーションは車のライトに連動します。

OFF：ボタンのイルミネーションはイグニッションキーに連動します。

3 初期設定メニューを解除する

B ボタンを押す

音の歪みを補正する

デジタル ATT

イコライザーカーブの調節（➡「イコライザーカーブを細かく調節する」80 ページ）による音の歪みをなくすことができます。

デジタル ATT（アッテネーター）について

通常は、音質の良い“High”に設定します。イコライザーカーブの設定でレベルを高く設定した周波数の音域が歪むことがあります。イコライザーカーブの設定で音が歪んだように感じたときは、デジタル ATT の設定を“Low”に切り換えてください。

1 デジタルATT設定モードにする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「初期設定メニューの切り換えかた」86 ページ）

2 デジタル ATT の設定を選ぶ

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、High ／ Low が切り換わります。

3 初期設定メニューを解除する

B ボタンを押す

オーディオ設定をリセットする

オーディオリセット

オーディオの設定を出荷時の状態に戻すことができます。
次の内容がリセットされます。
・オーディオ調整モードで設定された全ての項目
・オートタイムアライメント&イコライジングの内容
・ドアミュート設定情報

1 オーディオリセットモードにする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「初期設定メニューの切り換えかた」86 ページ）

2 リセット操作を始める

ロータリーコマンダーを押す

「リセットしますか？」と表示されます。リセットをやめるときは、B ボタンを押します。

B ボタンを押すと、初期設定メニューが解除されます。

3 リセットの確認をする

ロータリーコマンダーを右に操作する

「よろしいですか？」と表示されます。リセットをやめるときは、B ボタンを押します。

B ボタンを押すと、初期設定メニューが解除されます。

4 リセットする

ロータリーコマンダーを押す

「リセット完了」が表示され、オーディオ設定がリセットされます。

5 初期設定メニューを解除する

B ボタンを押す

ミュート／アッテネートを切り換える

ミュート

ミュート機能のある製品からミュート信号を受け取ったときに、本機の音声をミュートにするかアッテネートにするかを選ぶことができます。

ミュート／アッテネート機能について

ミュート機能のあるパイオニア製ナビゲーションシステムなどと本機を組み合わせると、その製品からミュート信号を受け取っている間だけ、ミュートまたはアッテネート機能が働きます。ミュート信号を受け取っているときの各設定の音量は、次のようになります。

・MUTE：音量“0”
・10dB ATT：もとの音量の約 1/3
・20dB ATT：もとの音量の約 1/10

ミュートまたはアッテネート機能が解除されると、自動的にもとの音量に戻ります。

1 ミュート設定モードにする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「初期設定メニューの切り換えかた」86 ページ）

2 設定を選ぶ

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、次のように切り換わります。

20dB ATT → MUTE → 10dB ATT → 20dB ATT

3 初期設定メニューを解除する

B ボタンを押す

ドアミュートの極性を設定する

ドアミュート設定 1

ドアミュート機能をご使用になる前に、車のドアを開けたときの極性を設定する必要があります。開閉時の極性を正確に確認し、設定してください。

1 ドアミュート設定1モードにする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「初期設定メニューの切り換えかた」86 ページ）

2 ドアミュート極性の設定を選択する

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、High ／ Low が切り換わります。

High：ドアを開けたときにドアミュート線の電圧が「High」になる場合、この設定にします。

Low：ドアを開けたときにドアミュート線の電圧が「Low」になる場合、この設定にします。

3 初期設定メニューを解除する

B ボタンを押す

ドアミュートを設定する

ドアミュート設定 2

車のドアを開けたときに、自動的にミュートもしくはアッテネート機能が働きます。

メモ

- ミュートもしくはアッテネート機能が終了した際は音量は元の状態に戻ります。

1 ドアミュート設定2モードにする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「初期設定メニューの切り換えかた」86 ページ）

2 ドアミュートの設定を選択する

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、次のように切り換わります。

OFF
↓
20dB ATT
↓
MUTE

3 初期設定メニューを解除する

B ボタンを押す

画面反転機能を ON ／ OFF する

画面反転

画面反転機能を ON ／ OFF できます。

画面反転機能について

画面反転機能は、各ソースを聞いているときに約 30 秒間操作しないと画面が自動的に反転する機能です。反転は、10 秒間隔で行われます。

1 画面反転機能モードにする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「初期設定メニューの切り換えかた」86 ページ）

2 画面反転機能を ON にする

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、ON ／ OFF します。

3 初期設定メニューを解除する

B ボタンを押す

メモ

●画面反転機能は、本機が OFF のときに、B ボタンを押すことでも ON ／ OFF することができます。（➡「はじめに」14 ページ）

スクロールの設定を切り換える

連続スクロール

連続スクロール機能を ON にすると、CD のタイトルなどを連続してスクロールできます。一度だけスクロールさせたいときは、この機能を OFF にしてください。

1 連続スクロールモードにする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「初期設定メニューの切り換えかた」86 ページ）

2 連続スクロールの設定をONにする

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、ON ／ OFF します。

3 初期設定メニューを解除する

B ボタンを押す

Bluetooth Audio ソースを ON にする

BT AUDIO 設定

Bluetooth 無線技術を利用して、Bluetooth 対応機器を接続できます。Bluetooth 対応機器を接続している場合、BT Audio ソースの設定を ON にします。

メモ

●この機能は、別売の Bluetooth アダプター（例：「CD-BTB10J」）を接続しているときだけ操作できます。

1 BT AUDIO 設定モードにする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「初期設定メニューの切り換えかた」86 ページ）

2 BT AUDIO を設定する

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、ON/OFF します。

3 初期設定メニューを解除する

B ボタンを押す

Bluetooth のパスコードを変更する

Bluetooth 接続時に使用する暗証番号（パスコード）を変更できます。初期設定は、「0000」になっています。

メモ

●この機能は、別売の Bluetooth アダプター（例：「CD-BTB10J」）を接続しているときだけ操作できます。

●空白は入力できますが、無効な文字です。空白を入力した場合、以下の制限があります。

—途中に空白を入力した場合、それ以降の文字が無効となってパスコードが確定されます。

—先頭に空白を入力した場合、パスコードは確定されません。もう一度、パスコードを編集してください。

1 パスコード編集モードにする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「初期設定メニューの切り換えかた」86 ページ）

2 パスコードを入力する

ロータリーコマンダーを上下左右に操作する

■ 入力する数字を選ぶとき

次の数字を選ぶ：上に操作する

前の数字を選ぶ：下に操作する

■ 入力する位置を選ぶとき

右に移動する：右に操作する

左に移動する：左に操作する

3 確認画面を表示させる

ロータリーコマンダーを押す

4 パスコードを決定する

ロータリーコマンダーを押す

パスコード編集

5 初期設定メニューを解除する

B ボタンを押す

Bluetooth のバージョンを表示する

BT バージョン情報

本機の Bluetooth のバージョン情報を表示させることができます。

メモ

●この機能は、別売の Bluetooth アダプター（例：「CD-BTB10J」）を接続しているときだけ操作できます。

1 BTバージョン情報モードにする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

（➡「初期設定メニューの切り換えかた」86 ページ）

2 Bluetooth のバージョン情報の表示する

ロータリーコマンダーを左右に操作する

Bluetooth デバイスのバージョンを表示する：
　左に操作する
システムのバージョンを表示する：
　右に操作する

3 初期設定メニューを解除する

B ボタンを押す

瞬時に音量を小さくする

アッテネーター

車内の会話が聞き取りにくいときに、瞬時に音量を小さくすることができます。

1 瞬時に音量を小さくする

リモコンの ATT ボタンを押す

ボタンを押すごとに、ON ／ OFF します。

アッテネーターが ON のときは、音量が約 1/10 になります。

時計を表示させる

時計表示

本機の電源が ON のとき、または電源が OFF のときに、時計を表示させることができます。

1 時計を表示する

TI/CLK ボタンを長く押す

ボタンを押すごとに、ON ／ OFF します。

メモ

●時計を合わせるには（➡「時計を合わせる」88 ページ）

よく使う機能を直接操作する

ダイレクトファンクション

リモコンの DF ボタンを押すと、よく使う機能をソースごとに直接操作することができます。

内蔵CD・WMA/MP3/AAC/WAV・マルチ CD・iPod・USB・DVD のとき

1 再生を一時停止する

リモコンの DF ボタンを押す

（➡「はじめに」10 ページ）

ボタンを押すごとに、機能が ON ／ OFF します。

ラジオのとき

1 BSM を始める

リモコンの DF ボタンを長く押す

BSM が始まります。（➡「ラジオ」39 ページ）

メモ

- BSM 中にリモコンの DF ボタンを押すことで、BSM を途中解除することもできます。

交通情報を受信する

トラフィックインフォメーション

AM 1 620 kHz または 1 629 kHz の交通情報を、簡単に受信することができます。

1 交通情報を受信する

TI/CLK ボタンを押す

交通情報を受信します。

2 放送に合わせて周波数を切り換える

ロータリーコマンダーを左右に操作する

右：1 629 kHz にするとき
左：1 620 kHz にするとき

3 交通情報の受信をやめる

TI/CLK ボタンを押す

交通情報を受信する前の状態に戻ります。

メモ

- この機能は、電源が OFF のときでも、どのソースからでも操作できます。
- 交通情報を受信しているときに音量を調節すると、交通情報用の音量として設定することができます。
- 交通情報を受信するとイコライザーカーブは交通情報用になります。交通情報の受信をやめるとイコライザーカーブは、もとの状態に戻ります。

ディスプレイ表示を切り換える

ディスプレイの表示を切り換えることができます。車内で、いろいろな表示を楽しむことができます。

1 メインメニューにする

ロータリーコマンダーを押す

2 ディスプレイモードにする

ロータリーコマンダーを回して「DISPLAY」を選び、ロータリーコマンダーを押す

3 ディスプレイ表示を切り換える

ロータリーコマンダーを回す

ロータリーコマンダーを回すごとに次のように切り換わります。

基本表示（BASIC DISPLAY）
↕
スペアナ 1（SPECTRUM ANALYZER-1）
↕
スペアナ 2（SPECTRUM ANALYZER-2）
↕
レベルメーター（LEVEL METER）
↕
ディスプレイオフ（DISPLAY OFF）

4 選んだ表示を設定する

ロータリーコマンダーを押す

選んだディスプレイ表示が設定され、ディスプレイモードが解除されます。

メモ

- ディスプレイモードを解除するには、B ボタンを押します。（約 30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に解除されます。）
- ディスプレイオフを選ぶと、ノイズを抑え、音質への影響を抑えることができます。ディスプレイオフ選択中は、ディスプレイオフインジケーターが点灯します。

エクスターナルユニットを使う

エクスターナルとは

本機には、エクスターナルという特殊なソースがあります。このソースには、本機がソースとして対応していない製品（将来発売されるパイオニア製品など）を接続できます。ただし、エクスターナルでは、操作できる機能が限られる場合があります。

本機には、2 台のエクスターナル製品を接続することができます。この場合、エクスターナル 1 とエクスターナル 2 が自動で設定されます。

ご注意

ここでは、エクスターナルユニットの基本的な操作方法だけを説明しています。機能は、接続するエクスターナルユニットによって異なります。機能について詳しくは、エクスターナルユニットの取扱説明書をご覧ください。

ソースとしてエクスターナルユニットを選ぶ

SRC/Vol ボタンを押す

ふだんの操作

B ボタンを押す

B ボタンを長く押す

ロータリーコマンダーを左右に操作する

ロータリーコマンダーを左右に長く操作して、離す

ロータリーコマンダーを上下に操作する

ファンクションメニューの操作

1 メインメニューにする

ロータリーコマンダーを押す

2 ファンクションモードにする

ロータリーコマンダーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンダーを押す

3 ファンクションモードを切り換える

ロータリーコマンダーを回す

ロータリーコマンダーを回すごとに次のように切り換わります。

ファンクション 1 モード
↕
ファンクション 2 モード
↕
ファンクション 3 モード
↕
ファンクション 4 モード
↕
オート／マニュアル切換モード

4 ファンクションモードを解除する

B ボタンを押す

メモ

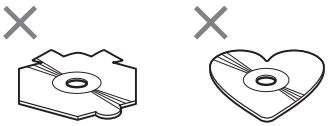
●ファンクションモードは、約 30 秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

CD の正しい使いかた

使用できる CD について

- 下記マークの付いているコンパクトディスク（光学式デジタルオーディオディスク）をご使用ください。

- 本機は音楽 CD 規格に準拠して設計されています。コピーコントロール CD などの CD 規格外ディスクの動作保証及び性能保証は致しかねます。
- ひび、キズ、そりのある CD は使用しないでください。
- 特殊形状のディスクは、使用しないでください。故障の原因になります。



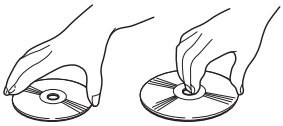
- 音楽用 CD レコーダーまたはパソコンで記録した CD-R ／ CD-RW ディスクは、ディスクの特性やキズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。
- パソコンで記録したディスクは、アプリケーションの設定および環境によって再生できないことがあります。（詳細は、アプリケーションの発売元にお問い合わせください。）
- 直射日光や高温など、車内での保管状況により、CD-R ／ CD-RW ディスクは再生できなくなる場合があります。
- CD-R ／ CD-RW ディスクに記録されているタイトルなどの文字情報は、本機では表示されない場合があります。（音楽データ（CD-DA）再生時）
- ファイナライズされていない CD-R ／ CD-RW ディスクには対応していません。
- CD-R ／ CD-RW ディスクの取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

「DualDisc」の再生について

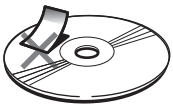
- 「DualDisc」は、片面に DVD 規格準拠の映像やオーディオが、もう片面に CD 再生機での再生を目的としたオーディオがそれぞれ収録されています。
- DVD 面ではないオーディオ面は、一般的な CD の物理的規格に準拠していないために再生できないことがあります。
- 「DualDisc」を再生機器に挿入をしたり、取り出しをしたりするときに再生面の反対側の面に傷がつく場合があります。傷が付いた面は再生すると不具合がでる場合があります。
- ディスクを取り出せないといった不具合が起こる可能性がありますので「DualDisc」はご使用にならないでください。
- 「DualDisc」の仕様や規格などの詳細に関しましては、ディスクの発売元または販売元にお問い合わせください。

取り扱い上のご注意

- CD は、下図のように、信号記録面（虹色に光っている面）をさわらないように持ってください。

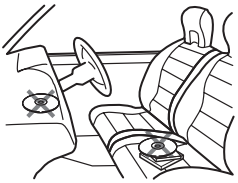


- CD にキズを付けないでください。
- CD にシールなどを貼り付けないでください。



保管上のご注意

- 直射日光の当たるところや高温になるところには、CD を保管しないでください。



- CD がそらないように、必ずケースに入れて保管してください。

お手入れについて

- CD が汚れたときは、柔らかいきれいな布で CD の内周から外周方向へ軽くふいてください。

アナログ式レコード用のクリーナー、静電気防止剤などは使用しないでください。またベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。

CD 再生の環境について

- 走行中、振動のショックで音飛びを起こすことがあります。
- 寒いとき、ヒーターを入れた直後に CD 再生を始めると、本機内部の光学系レンズや CD に露が生じて、正常な再生ができないことがあります。このようなときは、1 時間ほど放置して自然に露がとれるのをお待ちください。CD に付いた露は柔らかい布でふいてください。

メモ

●製品設計上配慮していますが、機構上あるいは使用環境・ディスクの取り扱いなどにより、ディスク面に実使用上支障のない程度のキズが付くことがあります。これは、製品の故障ではありません。一般的な消耗としてご理解ください。

WMA ／ MP3 ／ AAC ／ WAV ファイルについて

WMA とは？

- 「Windows Media™ Audio」の略で、米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。WMA データは、Windows Media Player Ver. 7 以降を使用てエンコードすることができます。

ご注意

- ●WMA ファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
- ●WMA ファイルをエンコードした Windows Media Player のバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- ●画像データを含む WMA ファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

再生できる WMA ファイルについて

ご注意

- ●WMA ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子（.wma）を付けてください。
- ●本機は、拡張子（.wma）が付いているファイルを WMA ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WMA ファイル以外には拡張子(.wma)を付けないでください。

- 再生可能な WMA ファイルのサンプリング周波数は 32 kHz ～ 48 kHz です。
- WMA ファイルは一般的に、ビットレートが高いほど音質が良くなります。本機は、CBR（固定ビットレート）で 48 kbps ～ 320 kbps、VBR（可変ビットレート）で 48 kbps ～ 384 kbps の WMA ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、より高いビットレートで記録することをお勧めします。
- ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護（DRM）で保護されている場合、そのディスクは再生できません。「PROTECT」と表示されます。
- この製品は、下記の形式には対応していません。
  - − Windows Media Audio 9 Professional（5.1ch）
  - − Windows Media Audio 9 Lossless（可逆圧縮）
  - − Windows Media Audio 9 Voice

MP3 とは？

- 「MPEG Audio Layer-3」の略で、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

再生できる MP3 ファイルについて

ご注意

- ●MP3 ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子（.mp3）を付けてください。
- ●本機は、拡張子（.mp3）が付いているファイルを MP3 ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、MP3 ファイル以外には拡張子（.mp3）を付けないでください。

- ID3 tag の Ver. 1.0 ／ 1.1 ／ 2.2 ／ 2.3 ／ 2.4 のアルバム名、曲名、およびアーティスト名の表示に対応しています。なお、ID3 tag の Ver. 1.X と Ver. 2.X が混在している場合は、Ver. 2.X が優先されます。
- サンプリング周波数が 32 kHz、44.1 kHz、48 kHz の MP3 ファイルを再生する場合のみ、エンファシスに対応します。なお、再生可能なサンプリング周波数は、16 kHz ～ 48 kHz です。
- MP3 ファイルは一般的に、ビットレートが高いほど音質が良くなります。本機は、8 kbps ～ 320 kbps の MP3 ファイルの再生に対応しています。また、本機は VBR（可変ビットレート）で記録されたディスクの再生にも対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、128 kbps 以上のビットレートで記録することをお勧めします。

AAC とは？

- 「Advanced Audio Coding」の略で、MPEG2、MPEG4 で使用される音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

再生できる AAC ファイルについて

ご注意

- ●AAC ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子（.m4a）を付けてください。
- ●本機は、iTunes を使用してエンコードされた AAC ファイルの再生に対応しています。
- ●本機は、iTunes で作成された拡張子（.m4a）が付いているファイルを AAC ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、AAC ファイル以外には拡張子（.m4a）を付けないでください。
- ●画像データを含む AAC ファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

- AAC ファイルをエンコードした iTunes のバージョンによっては、正しく再生されないことがあります。
- AAC ファイルをライティングした iTunes のバージョンによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。
- 再生可能な AAC ファイルのサンプリング周波数は、11.025 kHz～48 kHz です。
- 一般的に AAC ファイルは、ステレオビットレートが高いほど音質は良くなります。本機は、16 kbps ～ 320 kbps のステレオビットレートで記録された AAC ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、できるだけ大きいステレオビットレートで記録された AAC ファイルの使用を推奨します。VBR（可変ビットレート）で記録された AAC ファイルは再生できません。
- iTunes Store で購入された楽曲（.m4p）は、CD-R ／ CD-RW または USB 機器に記録して再生できません。
- この製品は、下記の形式には対応していません。
  － Apple ロスレス・エンコーダ

WAV とは？

- 「Waveform」の略で、Windows® での標準音声フォーマットです。

再生できる WAV ファイルについて

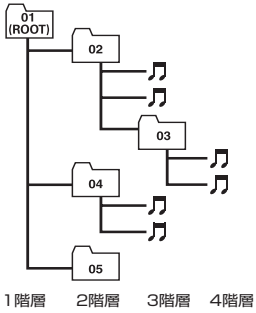
ご注意

- ●WAV ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子（.wav）を付けてください。
- ●本機は、拡張子（.wav）が付いているファイルを WAV ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WAV ファイル以外には拡張子（.wav）を付けないでください。

- 本機は、LPCM 形式および MS ADPCM 形式でエンコードされた WAV ファイルの再生に対応しています。
- 本機は、LPCM 形式では 16 kHz ～ 48 kHz、MS ADPCM 形式では 22.05 kHz ～ 44.1 kHz のサンプリング周波数で記録された WAV ファイルの再生に対応しています。
- 表示されるサンプリング周波数の桁は、すべてではないことがあります。
- WAV ファイルは一般的に、量子化ビット数が高いほど音質が良くなります。本機は、LPCM 形式で 8 bit または 16 bit、MS ADPCM 形式で 4 bit の量子化ビット数で記録された WAV ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、より高い量子化ビット数で記録することをお勧めします。

ディスク内のフォルダーとファイルについて

- WMA ／ MP3 ／ AAC ／ WAV ファイルを収録した CD-R ／ CD-RW ／ CD-ROM のフォルダー構造は次の図のようになります。



- WMA ／ MP3 ／ AAC ／ WAV ファイルが記録された CD-R ／ CD-RW ／ CD-ROM の再生に対応しています。ISO9660 のレベル 1 ／レベル 2 ／拡張フォーマット（Joliet、Romeo）に準拠して記録されたディスクが再生可能です。
- マルチセッション方式で記録したディスクの再生に対応しています。
- パケットライトには対応していません。
- m3u のプレイリストには対応していません。
- MP3i (MP3 interactive) フォーマット、および MP3 PRO フォーマットには対応していません。
- ファイル名の最大表示文字数は、拡張子を含めて 32 文字です。また、フォルダー名の最大表示文字数は 32 文字です。
- 拡張フォーマット（Joliet、Romeo）に準拠して記録されたファイルの場合でも、先頭から 32 文字までの表示に対応しています。
- 再生などの操作でフォルダーが選択される順番は、ライティングソフトで書き込まれた順番になります。ただし、ライティングソフトによっては、再生の順番を指定できるものもあります。
- 曲間（トラック間）にブランクがない CD を、WMA ／ MP3 ／ AAC ／ WAV ファイルとして CD-R ／ CD-RW ／ CD-ROM に記録して再生した場合、曲間が音飛びしたように聞こえます。
- フォルダー番号は本機が割り当てます。お客様が割り当てることはできません。
- CD-R ／ CD-RW ／ CD-EXTRA ／ MIXED-MODE CD ディスクに WMA ／ MP3 ／ AAC ／ WAV ファイルと音楽データ（CD-DA）が混在しているときは、WMA ／ MP3 ／ AAC ／ WAV ファイルと音楽データ（CD-DA）を切り換えて再生できます（➡「CD のふだんの操作」20 ページ）。この場合、再生は一番先頭の曲から始まります。
- WMA ／ MP3 ／ AAC ／ WAV ファイルを含まないフォルダーは認識しません。フォルダーの番号を表示せず、スキップします。
- 多くのフォルダー階層を持つディスクは、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。できるだけ少ない階層にすることをおすすめします。
- 再生できるファイルの合計は、最大 999 ファイルです。
- 再生できるフォルダーの合計は、最大 99 フォルダーです。

USB 機器について

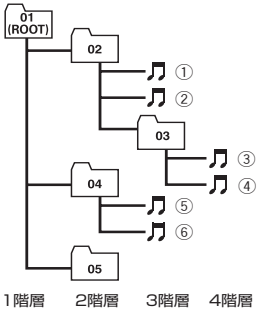
- USB ポータブルオーディオプレーヤーや USB Mass Storage Class 対応の USB メモリーに収録された WMA ／ MP3 ／ AAC ／ WAV ファイルを再生できます。

ご注意

- ●接続する USB 機器によっては、ラジオにノイズの影響を与えることがあります。
- ●パーティションを作った USB メモリーは使用できません。
- ●使用する USB 機器の種類によっては、本機が正しく認識できない場合があります。また、曲を正しく再生できない場合があります。
- ●USB ハブを使用しての接続には対応していません。
- ●USB 機器を直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- ●本機と組み合わせて使用する場合、USB 機器は必ず固定してください。USB 機器が落下して、ブレーキペダルやアクセルペダルの下に滑り込むと大変危険です。
- ●USB メモリー、USB オーディオプレーヤー以外（USB 扇風機など）は接続しないでください。
- ●USB 機器の取り扱いについて詳しくは、それぞれの説明書をお読みください。

USB 機器内のフォルダーとファイルについて

- USB メモリー内のフォルダーと圧縮オーディオファイルの構成は、下図のようになります。USB ポータブルオーディオプレーヤーの場合の構成は、プレーヤーによって異なります。



- 01 ～ 05 はフォルダー番号の割り当て、①～⑥は曲の再生順の例です。ユーザーが本機でフォルダー番号を割り当てたり、再生の順番を指定することはできません。
- 圧縮オーディオファイルの再生の順序は、USB メモリーにコピーされた順番と同じです。
- 再生の順序を指定するには、次の方法を推奨します。
  - ① パソコンで、「001xxx.mp3」や「099yyy.wma」など順番を示す数字をファイル名の先頭に付ける。
  - ② それらのファイルをフォルダーに入れる。
  - ③ フォルダー単位で USB メモリーにコピーする。

  ただしパソコンの環境によっては、この方法で指定できない場合もあります。
- 再生できるファイルの合計は、最大 15 000 ファイルです。
- 再生できるフォルダーの合計は、最大 500 フォルダーです。
- 多くのフォルダー階層を持つ USB 機器は、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。できるだけ少ない階層にすることをおすすめします。

次のページへ続く

USB 機器内のフォルダーとファイルについて <つづき>

- 画像データを含む圧縮オーディオファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。
- ファイル名の最大表示文字数は、拡張子を含めて 32 文字です。また、フォルダー名の最大表示文字数は 32 文字です。
- 拡張フォーマット（Joliet、Romeo）に準拠して記録されたファイルの場合でも、先頭から 32 文字までの表示に対応しています。
- ファイルをエンコード／ライティングしたアプリケーションによっては、文字情報が正しく表示されないことがあります。
- m3u のプレイリストには対応していません。

iPod について

本機が対応する iPod

- 本機は以下の iPod に対応しています。本機で確認済みのソフトウェアのバージョンは次のとおりです。これ以前のバージョンについては保証できません。
  - 第 5 世代 iPod：Ver. 1.3.0
  - 第 1 世代 iPod nano：Ver. 1.3.1
  - 第 2 世代 iPod nano：Ver. 1.1.3
  - 第 3 世代 iPod nano：Ver. 1.1.2
  - 第 4 世代 iPod nano：Ver. 1.0.3
  - iPod classic：Ver. 1.1.2
  - iPod touch：Ver. 2.0
  - iPhone 3G：Ver. 2.0
- 最新の情報についてはカロッツェリアホームページ（http://carrozzeria.jp）をご覧ください。
- 操作方法は、iPod の世代やソフトウェアのバージョンによって異なることがあります。
- iPod を接続するには、iPod 用 USB 変換ケーブル（例:CD-IU50）が必要です。
- 先述したモデル以前の iPod は、当社の iPod アダプター（例：「CD-IB10 Ⅱ」）と組み合わせると、本機から操作できます。ただし、iPod は Dock コネクタを備えている必要があります。

ご注意

- iPod は、著作権のないマテリアル、または法的に複製・再生を許諾されたマテリアルを個人が私的に複製・再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。
- iPod を直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本機と組み合わせて使用する場合、iPod は必ず固定してください。iPod が落下して、ブレーキペダルやアクセルペダルの下に滑り込むと大変危険です。
- iPod の取り扱いについて詳しくは、iPod の説明書をお読みください。

iPod の設定について

- 音質効果を最適にするために、iPod が接続されると、本機は iPod の EQ の設定を自動的に「FLAT」に変更します。取り外すと、設定は自動的に元に戻ります。
- iPod を本機に接続している場合、iPod のリピートは「オフ」に設定できません。また、iPod のリピートが「オフ」に設定されていても、本機に接続すると、自動的に「すべて」に変更されます。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。

それでも直らないときは

「保証書とアフターサービス」（➡118ページ）をお読みになり、修理を依頼してください。

●共通項目

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクターが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。**（➡「取付説明書」）**
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズと同じ容量のものと交換してください。**（➡「取付説明書」）**
音が出ない。 音が小さい。	音量を下げている。	音量を上げてください。**（➡「基本的な操作」18 ページ）**
	ミュートが ON になっている。	ミュートを解除してください。**（➡「ミュート / アッテネートを切り換える」95 ページ）（➡「ドアミュートを設定する」96 ページ）**
	アッテネーターが ON になっている。	アッテネーターを解除してください。**（➡「瞬時に音量を小さくする」100 ページ）**
左または右のスピーカーから音が出ない。	左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。**（➡「左右の音量バランスを調節する」73 ページ）**
ディスプレイが反転表示する。	画面反転機能が ON になっている。	画面反転機能を解除してください。**（➡「画面反転機能を ON ／ OFF する」97 ページ）**
ディスプレイの表示がおかしい。	ディスプレイ表示が切り換わっている。	お好みの表示を選んでください。**（➡「ディスプレイ表示を切り換える」102 ページ）**
エンジンを切ったら警告音（ブザー）が鳴る。	デタッチワーニングが ON になっている。	フロントパネルを取り外してください。フロントパネルを取り外さない場合は、デタッチワーニングを OFF にしてください。**（➡「フロントパネルの外し忘れを警告する」89 ページ）**
エンジンを切ったらフロントパネルが自動で開く。	フェイスオートオープンが ON になっている。	フロントパネルを取り外してください。フロントパネルを取り外さない場合は、フェイスオートオープンを OFF にしてください。**（➡「フロントパネルを外しやすくする」89 ページ）**

●ラジオ

症　状	原　因	処　置
ラジオの受信中、“ジージー、ザーザー”という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください。**（➡「ラジオのふだんの操作」22ページ）**
	放送局の電波が弱い。	他の放送局を選局してみてください。**（➡「ラジオのふだんの操作」22ページ）**
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音が少なくなります。
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください。**（➡「ラジオのふだんの操作」22ページ）**

●CD、WMA ／ MP3 ／ AAC ／ WAV

症　状	原　因	処　置
CD 再生中、大きな雑音が出る。 CD の再生が途中で止まる。 CD を再生できない。	CD に大きなキズやそりがある。	他の CD に交換してください。良くなれば、CD の不良です。
	CD が極端に汚れている。	CD の汚れをふき取ってください。**（➡「CD の正しい使いかた」104ページ）**
	CD にくもりや水滴が付いている。	CD のくもりや水滴をふき取ってください。**（➡「CD の正しい使いかた 104ページ）**
	CD の裏表を逆にしてセットしている。	CD のタイトル面を上にしてセットしてください。**（➡「CD のふだんの操作」20ページ）**
CD を再生できない。 CD を取り出せない。	本機がディスクを認識していない。	Open/▲ ボタンを長く押すと、ディスクを取り出せます。もう一度、入れなおしてください。

こんなメッセージが表示されたら

●CD、WMA ／ MP3 ／ AAC ／ WAV のエラー表示

メッセージ（エラー番号）	原　因	処　置
「ERROR-10」「ERROR-11」「ERROR-12」「ERROR-15」「ERROR-17」「ERROR-30」「ERROR-50」「ERROR-A0」	電気系、機構系の故障が考えられる。	車のエンジンスイッチを一度 OFF にしてから ON にするか、CD 再生を一度やめてから、もう一度 CD 再生にしてください。
「ERROR-11」「ERROR-12」「ERROR-17」「ERROR-30」	CD が汚れている。	CD の汚れをふき取ってください。**（➡「CD の正しい使いかた」104 ページ）**
	CD にキズやひびがある。	CD を交換してください。
「ERROR-12」「ERROR-15」「ERROR-17」	CD-R ／ CD-RW を録音しないまま使用している。	CD-R ／ CD-RW は録音してからお使いください。
「ERROR-23」	再生できないフォーマットの CD-ROM を挿入した。	CD を交換してください。
「NO AUDIO」	何も録音されていない CD-ROM を挿入した。	WMA ／ MP3 ／ AAC ／ WAV ファイルの記録されている CD-ROM と交換してください。
「PROTECT」	ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護（DRM）で保護されている。	CD を交換してください。
「TRK SKIPPED」	デジタル著作権保護（DRM）で保護された WMA ファイルを再生した。	デジタル著作権保護（DRM）で保護されていないファイルを再生してください。

メモ

●マルチ CD 再生中に、上記以外のエラーメッセージが表示されたときは、マルチ CD の取扱説明書をご覧ください。

●USB のエラー表示

メッセージ（エラー番号）	原　因	処　置
「CHECK USB」	USB コネクターまたは USB ケーブルがショートした。	USB コネクター／ USB ケーブルが何かにはさまっていないか、破損していないか確認してください。
	規定（**➡「おもな仕様」120 ページ**）以上の電流を消費する USB 機器を接続した。	接続した USB 機器を外してください。そのあとで、車のエンジンスイッチを一度 OFF にしてから ON にしてください。次に、対応する USB 機器を接続してください。
「NOT COMPATIBLE」	接続された USB 機器が本機に対応していない。	USB Mass Storage Class 対応の USB 機器を接続してください。
「NO AUDIO」	何も収録・保存されていない USB 機器を接続した。	対応する圧縮オーディオファイルが収録・保存された USB 機器を接続してください。
	セキュリティー機能付きの USB メモリーを接続した。	USB メモリーの説明書に従って、セキュリティーを解除してから使用してください。
「PROTECT」	USB 機器内のすべての WMA ファイルが Windows Media DRM 9 ／ 10 で保護されている。	Windows Media DRM 9 ／ 10 で保護されていない圧縮オーディオファイルを収録・保存した USB 機器を接続してください。
「TRK SKIPPED」	Windows Media DRM 9 ／ 10 で保護された WMA ファイルを再生した。	Windows Media DRM 9 ／ 10 で保護されていない圧縮オーディオファイルを再生してください。
「ERROR-19」	正常に通信できない。	以下のいずれかの処置を行ったあと、ソースを USB に切り換えてください。 車のエンジンスイッチを一度 OFF にしてから ON する。／接続した USB 機器を一度外してから接続する。／別のソースに切り換える。
「ERROR-23」	接続された USB 機器のフォーマットが、FAT32 か FAT16 ではない。	フォーマットが、FAT32 か FAT16 の USB 機器を接続してください。
「NO DEVICE」	USB 機器または iPod が接続されていない。	対応する USB 機器を接続してください。

次のページへ続く

こんなメッセージが表示されたら

●iPod のエラー表示

メッセージ（エラー番号）	原　因	処　置
「CHECK USB」 「ERROR-A1」	iPod は動作するが、充電されない。	iPod ケーブルがショートしていないか（たとえば、金属物にはさまれていないか）確認してください。確認後、車のエンジンスイッチを一度 OFF にしてから ON にするか、iPod を一度脱着してください。
「ERROR-19」	正常に通信できない。 iPod に問題が発生した。	コネクターを一度外し、iPod のメインメニューが表示されてから、もう一度確実にコネクターを接続してください。それでも iPod が正常に動作しない場合は、iPod をリセットしてください。
「ERROR-16」「ERROR-18」	iPod ソフトウェアのバージョンが古い。	iPod ソフトウェアのバージョンをアップデートしてください。
	iPod に問題が発生した。	コネクターを一度外し、iPod のメインメニューが表示されてから、もう一度確実にコネクターを接続してください。それでも iPod が正常に動作しない場合は、iPod をリセットしてください。
「NO SONGS」	iPod に曲が入っていない。	iPod に曲を転送してください。
「STOP」	選んだプレイリストに曲が入っていない。	曲が入っているプレイリストを選んでください。
「NO DEVICE」	USB 機器または iPod が接続されていない。	対応する iPod を接続してください。

●オートイコライジングのエラー表示

メッセージ	原　因	処　置
「AUX1/ マイクを取外して下さい」	AUX1/ マイク入力端子に何かが接続されている。	AUX1/ マイク入力端子から AUX ケーブル（2.5 mm ステレオ超ミニプラグ）やマイクを取り外してください。
「マイクを確認下さい」	マイクが接続されていない。	付属の音響特性測定用マイクをきちんと差し込んでください。**（➡「オートタイムアライメント & イコライジングを行う」84 ページ）**
「High SP エラー」 「High レフト SP エラー」 「High ライト SP エラー」 「Mid SP エラー」 「Mid レフト SP エラー」 「Mid ライト SP エラー」 「Low SP エラー」 「Low レフト SP エラー」 「Low ライト SP エラー」 「SUB WOOFER エラー」 「SW レフト SP エラー」 「SW ライト SP エラー」	スピーカーの計測音がマイクで拾えない。	ソースを切り換えて、スピーカーから音が出るか確認してください。音が出ない場合は、スピーカーリード線の接続を確認してください。**（➡「取付説明書」）** 付属の音響特性測定用マイクを正しくセットしてください。 なるべく静かなところに車を停車し、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。
「騒音大きすぎます」	周囲の騒音レベルが高すぎる。	なるべく静かなところに車を停車し、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。 付属の音響特性測定用マイクを正しくセットしてください。

保証書とアフターサービス

●保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

●保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より 1 年間です。

●保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店または修理受付センター（沖縄県のみ沖縄サービスステーション）にご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

●保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店または修理受付センター（沖縄県のみ沖縄サービスステーション）にご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

●補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低 6 年間保有しています。（性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

●ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

商標・著作権など

WMA

Windows Media、Windows のロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
本製品は、米国 Microsoft Corporation が所有する技術を使用しています。また、米国 Microsoft Licensing Inc. の許可を得ずに使用または頒布できません。

MP3

本機を提供する場合、非営利目的の個人向けライセンスのみが提供されます。下記放送で、本機を使うライセンスを提供したり、いかなる形式にせよ、使う権利を意味するものではありません。下記放送で本機を使用する場合は、それぞれ固有のライセンスが必要となります。詳細は、インターネット上のホームページ
http://www.mp3licensing.com
をご覧ください。

- 営業目的、すなわち利益の発生するリアルタイム放送（地上波放送、衛星放送、ケーブルテレビを始めとするメディア）、インターネットを使った放送やデータ転送、イントラネットを始めとするネットワーク、あるいはペイオーディオやオンデマンド方式のオーディオといった電子的放送番組の配布システムなど。

iTunes

iTunes は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

iPod

iPod は、米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

「Made for iPod」とは、iPod 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。

アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。

iPhone

iPhone は、Apple Inc. の商標です。

「Works with iPhone」とは、iPhone 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。

アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。

おもな仕様

●共通部

使用電源： DC 14.4 V（10.8 V ～ 15.1 V 使用可能）
アース方式： マイナスアース方式
最大消費電流： 16.0 A（2.0 A：本体部、14.0 A：アンプ部）
外形寸法：
本体部： （取付寸法）：178（W）mm × 50（H）mm × 162（D）mm
（ノーズ寸法）：170（W）mm × 46（H）mm × 17（D）mm
アンプ部： 178（W）mm × 40（H）mm × 100（D）mm
質 量：
本体部： 1.5 kg（コード含まず）
アンプ部： 0.8 kg

●オーディオ /DSP

最大出力： 50W × 6
定格出力： 22W × 6（50 Hz ～ 15 000 Hz、5 % THD）
負荷インピーダンス： 4 Ω（4 Ω～ 8 Ω使用可能）
プリアウト最大出力レベル： 5.0 V
出力インピーダンス： 100 Ω
ラウドネスコンター： 10 dB（100 Hz）、6.5 dB（10 kHz）
（ボリューム：−30 dB）

イコライザー（左右独立 31 バンド グラフィックイコライザー）
周波数：20/25/31.5/40/50/63/80/100/125/160/200/250/315/400/500/630/800/1k/1.25k/1.6k/2k/2.5k/3.15k/4k/5k/6.3k/8k/10k/12.5k/16k/20k Hz
調整幅：± 12dB（0.5dB step）

ネットワーク（左右独立）（4 ウェイネットワーク）
HIGH（LPF）：
周波数：5k/6.3k/8k/10k/12.5k/16k/20k Hz
スロープ：PASS、−6、−12、−18、−24、−30、−36 dB/oct.
調整幅：0 ～−24dB、MUTE（1dB step）
位相：NORMAL/REVERSE

HIGH（HPF）：
周波数：800/1k/1.25k/1.6k/2k/2.5k/3.15k/4k/5k/6.3k/8k/10k/12.5k/16k Hz
スロープ：−6、−12、−18、−24、−30、−36 dB/oct.
調整幅：0 ～−24dB、MUTE（1dB step）
位相：NORMAL/REVERSE

MID（LPF/HPF）：
周波数（LPF）：25/31.5/40/50/63/80/100/125/160/200/250/315/400/500/630/800/1k/1.25k/1.6k/2k/2.5k/3.15k/4k/5k/6.3k/8k/10k/12.5k/16k/20k Hz
周波数（HPF）：20/25/31.5/40/50/63/80/100/125/160/200/250/315/400/500/630/800/1k/1.25k/1.6k/2k/2.5k/3.15k/4k/5k/6.3k/8k/10k/12.5k/16k Hz
スロープ：PASS、−6、−12、−18、−24、−30、−36 dB/oct.
調整幅：0 ～−24dB、MUTE（1dB step）
位相：NORMAL/REVERSE

LOW（LPF/HPF）：

周波数（LPF）：25/31.5/40/50/63/80/100/125/160/200/250/315/400/500/630/800/1k/1.25k/1.6k/2k/2.5k/3.15k/4k/5k/6.3k/8k/10k/12.5k/16k/20k Hz

周波数（HPF）：20/25/31.5/40/50/63/80/100/125/160/200/250/315/400/500/630/800/1k/1.25k/1.6k/2k/2.5k/3.15k/4k/5k/6.3k/8k/10k/12.5k/16k Hz

スロープ：PASS、−6、−12、−18、−24、−30、−36 dB/oct.

調整幅：+6 ～−24dB、MUTE（1dB step）

位相：NORMAL/REVERSE

SW（LPF/HPF）：

周波数（LPF）：25/31.5/40/50/63/80/100/125/160/200/250/315/400/500/630/800/1k/1.25k/1.6k/2k/2.5k/3.15k/4k/5k/6.3k/8k/10k/12.5k/16k/20k Hz

周波数（HPF）：20/25/31.5/40/50/63/80/100/125/160/200/250/315/400/500/630/800/1k/1.25k/1.6k/2k/2.5k/3.15k/4k/5k/6.3k/8k/10k/12.5k/16k Hz

スロープ：PASS、−6、−12、−18、−24、−30、−36 dB/oct.

調整幅：+6 ～−24dB、MUTE（1dB step）

位相：NORMAL/REVERSE

●CD プレーヤー部

形式： コンパクトディスクオーディオシステム

使用ディスク： コンパクトディスク

信号フォーマット

サンプリング周波数：44.1 kHz

量子化ビット数：16 ビット直線

周波数特性： 5 Hz ～ 20 000 Hz（± 1 dB）

S/N 比： 115 dB（1 kHz）
（IHF-A ネットワーク）

ダイナミックレンジ： 100 dB（1 kHz）

チャンネル数： 2（ステレオ）

WMA デコーディングフォーマット： Ver. 7、7.1、8、9、10、11（2 ch audio）
（Windows Media Player）

MP3 デコーディングフォーマット： MPEG-1 & 2 AUDIO LAYER-3

AAC デコーディングフォーマット： MPEG-4 AAC
（Ver. 7.7 以前の iTunes でエンコードされた楽曲）

WAV シグナルフォーマット： Linear-PCM、MS ADPCM

●USB 部

USB 規格： USB 2.0 Full Speed

最大供給電流： 500 mA

ファイルシステム： FAT16、FAT32

最小メモリ容量： 256MB

USB クラス： マスストレージクラス

WMA デコーディングフォーマット： Ver. 7、7.1、8、9、10、11（2 ch audio）
（Windows Media Player）

MP3 デコーディングフォーマット： MPEG-1 & 2 AUDIO LAYER-3

AAC デコーディングフォーマット： MPEG-4 AAC
（Ver. 7.7 以前の iTunes でエンコードされた楽曲）

WAV シグナルフォーマット： Linear-PCM、MS ADPCM

●FM チューナー部

受信周波数帯域：	76.0 MHz ～ 90.0 MHz
実用感度：	9 dBf（0.8 μ V/75 Ω、モノラル、S/N：30 dB）
S/N：	72 dB（IHF-A ネットワーク）
高調波歪率：	0.3 %（65 dBf 入力、1 kHz、ステレオ）、 0.1 %（65 dBf 入力、1 kHz、モノラル）
周波数特性：	30 Hz ～ 15 000 Hz（± 3 dB）
ステレオセパレーション：	45 dB（65 dBf 入力、1 kHz）

●AM チューナー部

受信周波数帯域：	522 kHz ～ 1 629 kHz（9 kHz）
実用感度：	25 μ V（S/N：20 dB）
S/N：	62 dB（IHF-A ネットワーク）

●付属品

コードユニット （電源ケーブル、RCA、USB ケーブル）：	3
音響特性測定用マイク：	1
取付ネジ類：	1 式
取扱説明書：	1
取付説明書：	1
リモコン：	1
リモコン取付キット：	1
リチウム電池（CR2032）：	1
安全上のご注意：	1
保証書：	1
ご相談窓口・修理窓口のご案内：	1

メモ

●上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この 説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。

<各窓口へのお問い合わせ時のご注意>
「0120」で始まる フリーコールおよび フリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからは、ご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

修理窓口のご案内

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の**「故障かな?と思ったら」**を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、① 型名、② ご購入日、③ 故障症状を具体的にご連絡ください。

修理についてのご相談窓口

● お買い求めの販売店に修理の依頼ができない場合

修理受付センター (沖縄県を除く全国)

受付時間 月曜～金曜　9：30～18：00
土曜･日曜･祝日　9：30～12：00、13：00～17：00（弊社休業日は除く）

電話　フリーコール **0120-5-81028**（ゴー パイオニア）
【一般電話】**03-5496-2023**

ファックス　フリーコール **0120-5-81029**

インターネットホームページ *http://pioneer.jp/support/repair.html*
※インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ／ビジュアル商品に限ります

沖縄サービスステーション (沖縄県のみ)

受付時間 月曜～金曜　9：30 ～ 18：00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

電話　【一般電話】**098-879-1910**

ファックス　**098-879-1352**

部品のご購入についてのご相談窓口

● 部品（付属品・リモコン・取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間 月曜～金曜　9：30～18：00
土曜　9：30～12：00、13：00～18：00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

電話　**0120-5-81095**
【一般電話】**0538-43-1161**

ファックス　**0120-5-81096**

<各窓口へのお問い合わせ時のご注意>
「0120」で始まるフリーコールおよびフリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからは、ご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口

● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーコール）

受付時間 月曜～金曜　9：30～18:00
土曜･日曜･祝日　9：30～12:00、13：00～17：00（弊社休業日は除く）

■ カーオーディオ／カーナビゲーション商品

電話　フリーコール **0120-944-111**
【一般電話】**03-5496-8016**

ファックス　**03-3490-5718**

インターネットホームページ　*http://pioneer.jp/support/*

※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

パイオニア株式会社
〒153-8654　東京都目黒区目黒 1-4-1

© パイオニア株式会社 2009
<KSNZF> <09D00000>　<CRA4280-A>